

私立大学図書館協会東地区部会

研究部報告書

2008年度

2009年3月

研究部担当理事校

東京経済大学図書館

# 目 次

## 《2008 年度研究部活動報告》

運営委員会	1
運営委員・研究分科会代表者合同会議	3
研究会	3
研修委員会	4
研修会	5
研究分科会	6

## 《2008 年度研究分科会活動報告》

1. 分類研究分科会	7
2. 逐次刊行物研究分科会	10
3. パブリック・サービス研究分科会	13
4. 図書館運営戦略研究分科会	16
5. レファレンス研究分科会	18
6. 理工学研究分科会	20
7. 西洋古版本研究分科会	21
8. 企画広報研究分科会	23
9. 和漢古典籍研究分科会	25
10. 情報リテラシー教育研究分科会	27
11. Lーラーニング学習支援システム研究分科会	29

## 《研究分科会刊行物一覧》

## 《2008 年度研究分科会月例会について（報告）》

## 《2009 年度新設研修分科会について（報告）》

## 《研究講演会》

## 《研究会（交流会）》

## 《研修会》

2008 年度研修会 2008 年 10 月 23 日（木）～10 月 24 日（金）	40
テーマ：図書館評価 ー図書館サービスを自己満足で終わらせないためにー	
第 1 日（10 月 23 日）	
・ 図書館評価のツボと落とし穴	（糸賀 雅児） 42
・ 国立大学図書館と評価の仕組み	（蒲生 英博） 45
・ 利用者の視点からの図書館サービス評価	（須賀 千絵） 52

第2日(10月24日)

- ・学生の情報リテラシーに与える図書館利用教育の効果  
  －国際基督教大学における評価の試み－ (畠山 珠美) …… 61
- ・明治大学図書館「図書館活用法」プログラム評価活動  
  (明治大学図書館評価チーム) …… 65
- ・指定管理者による千代田図書館運営の評価と指標 (梶川 悦子) …… 72
- ・電子図書館評価を意識したシステム設計 (宇陀 則彦) …… 75

≪2008年度研修会の総括と回顧≫ (研修委員長 今村 昭一) …… 79

≪2008年度 東地区部会研究部決算報告書・監査報告書≫ …… 81

≪2009年度 研究部活動計画(案)≫ …… 82

≪2009年度 東地区部会研究部予算(案)≫ …… 83

≪関係規程≫

- 研究部細則 …… 84
- 研究分科会申し合わせ …… 86
- 研修委員会規則 …… 88

## 《2008 年度研究部活動報告》

### 1. 運営委員会

運営委員（任期 2007 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日）

委 員	相田 勉	（国土館大学）
	加藤 早苗	（早稲田大学）
	川越 智之	（駒澤大学）
	古山 悟由	（國學院大學）
	佐々木 真理子	（共立女子大学）
	佐藤 裕子	（慶應義塾大学）
	中尾 拓史	（東京理科大学）（2007 年 4 月 1 日～2007 年 6 月 30 日）
	泉 宏紀	（東京理科大学）（2007 年 7 月 1 日～2009 年 3 月 31 日）
	山下 智美	（帝京大学）（2007 年 4 月 1 日～2008 年 9 月 30 日）
	三浦 治	（帝京大学）（2008 年 10 月 1 日～2009 年 3 月 31 日）

研究部担当理事校 東京経済大学

#### 第 1 回 2008 年 4 月 25 日（金）15：00～17：00 於：慶應義塾大学

1. 2007 年度研究部決算報告について
2. 2008 年度研究部予算（案）について
3. 2008 年度研究部スケジュール（案）について
4. 2008/2009 年度研究分科会会員の更新結果について
5. 2007 年度研究分科会活動報告について
6. 2007 年度研究分科会会計報告について
7. 研究分科会の休会について
8. 2008 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
9. 2008 年度部会総会行事について

#### 第 2 回 2008 年 5 月 22 日（木）13：00～14：30 於：駒澤大学

1. 2008 年度第 1 回研究部運営委員・研究分科会代表者合同会議について
2. 2007 年度分類研究分科会会計報告について
3. 2008 年度研究分科会予算計画について
4. 2008 年度東地区部会総会・館長会・研究講演会について

#### 第 3 回 2008 年 6 月 13 日（金）12：00～12：30 於：玉川大学

1. 2008 年度研究講演会最終打ち合わせについて
2. 2008 年度研究会（交流会）について

**第4回 2008年7月11日(金) 15:00~17:00 於:東京理科大学**

1. 2008年度研究会(交流会)について
2. 2008年度夏期研究合宿(集中研究会)実施計画について
3. 研究分科会の見直しについて
4. L-ラーニング学習支援システム研究分科会アンケートについて
5. 研修委員会からの要望(研修会開催回数)について

**第5回 2008年10月10日(金) 15:00~17:00 於:共立女子大学**

1. 2008年度研究会(交流会)について
2. 2008年度第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
3. 次期研究部運営委員の推薦について
4. 特別助成金の申請について(L-ラーニング)
5. 研究分科会見直しについて
6. 研修会講師謝礼について

**第6回 2008年11月14日(金) 11:30~12:45 於:東京経済大学**

1. 2008年度第2回研究部運営委員・研究分科会代表者合同会議について
2. 2008年度研究分科会夏期研究合宿(集中研究会)実施報告について
3. 研究分科会運営上の問題について
4. 2009年度研究分科会報告大会要望について
5. 研修分科会の新規立ち上げについて
6. 2008年度研究会(交流会)の運営について
7. 2009年度研究講演会講師と演題について

**第7回 2008年12月11日(木) 15:00~17:00 於:國學院大學**

1. 2008年度中間決算について
2. 2009年度研究部活動計画(案)について
3. 2009年度研究部予算(案)について
4. 研究分科会の見直し案Iについて
5. 2009年度研修分科会の会員募集について
6. 次期運営委員について
7. 2009年度研究講演会の演題と講師について

**第8回 2009年3月12日(木) 14:00~16:30 於:東京経済大学**

1. 次期運営委員及び研修委員について
2. 2008年度研究部活動報告及び研究部中間決算について
3. 2009年度研究部活動計画(案)及び研究部予算(案)について
4. 研修分科会の募集結果について

5. 研究部担当理事校の引継について
6. 更新担当理事校の引継について
7. 月例会担当理事校の引継について
8. 研究分科会マニュアル 2009 年度版（案）について
9. 研究分科会の課題について
10. 研修委員会の活動について
11. 部会役員会の報告について

## 2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議

第 1 回 2008 年 5 月 22 日（木）15：00～17：00 於：駒澤大学

1. 2008 年度研究部活動計画（案）について
2. 2008 年度研究部予算（案）について
3. 2008 年度研究会（交流会）について
4. 2008 年度研究分科会活動計画について
5. 研究分科会マニュアル 2008 年度版について
6. 分科会関連業務の分担について
7. 協会ホームページについて
8. 2008 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
9. 2008/2009 年度研究分科会の休会について

第 2 回 2008 年 11 月 14 日（金）13：00～14：30 於：東京経済大学

1. 2008 年度研究会（交流会）について
2. 夏期研究合宿（集中研究会）について
3. 運営上の問題点について
4. 2009 年度研究分科会報告大会要望について
5. 研究分科会見直しについて
6. 研究部報告書原稿・会計報告書の提出について
7. 次期運営委員について

## 3. 研究会（交流会）

日 時：2008 年 11 月 14 日（金）15：00～19：00

会 場：東京経済大学

参加数：41 大学 69 名

講 義：「行列のできる講座とチラシの作り方」

特定非営利活動法人 男女共同参画おおた 牟田 静香

研究分科会活動中間報告：

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ①分類研究分科会    | 藤倉 恵一（文教大学） |
| ②逐次刊行物研究分科会 | 小室 啓子（文教大学） |

③パブリック・サービス研究分科会	瀬戸山 雄介 (学習院大学)
④図書館運営戦略研究分科会	櫻井 友美 (国士舘大学)
⑤レファレンス研究分科会	小塚 守 (立教大学)
⑥理工学研究分科会	小林 瑞希 (中央大学)
⑦西洋古版本研究分科会	坪谷 卓浩 (日本体育大学)
⑧企画広報研究分科会	武尾 亮 (女子栄養大学)
⑨和漢古典籍研究分科会	井上 玲子 (中央大学)
⑩情報リテラシー教育研究分科会	池田 有紀 (横浜商科大学)
⑪Lーラーニング学習支援システム研究分科会	阿部 潤也 (東京歯科大学)

#### 4. 研修委員会

研修委員 (任期 2008 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

委員長 今村 昭一 (早稲田大学)

委員 河野江津子 (慶應義塾大学)

伊原 千秋 (中央大学)

安田 清孝 (東京農業大学)

矢野 恵子 (明治大学)

鴨下 彰子 (東京経済大学) (2007 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日)

オブザーバー 浮塚 利夫 (明治大学)

**第 1 回 2008 年 4 月 18 日 (金) 14 : 00～16 : 50 於 : 早稲田大学**

1. 研修委員会の流れ (この 1 年間)
2. 2008 年度研修委員会の日程と会場
3. 2008-2009 年度研修会の日程と会場および見学先について
4. 2008 (-2009 年度) 研修会テーマについて

**第 2 回 2008 年 5 月 8 日 (木) 14 : 00～17 : 40 於 : 東京経済大学**

1. 2008-2009 年度研修会の日程と会場および見学先について (継続)
2. 2008 年度研修会テーマについて (継続)
3. 第 3 回以降の研修委員会の日程について

**第 3 回 2008 年 6 月 6 日 (金) 15 : 00～17 : 05 於 : 中央大学**

1. 2008 年度研修会テーマについて (継続)
2. 今後の進め方について
3. 第 4 回以降の研修委員会の日程について

**第 4 回 2008 年 9 月 26 日 (金) 14 : 00～17 : 10 於 : 明治大学**

1. 2008 年度研修会会場・動線の実地検分

2. 2008年度研修会参加申し込み状況について
3. 2008年度研修会準備状況について
4. 第5回以降の研修委員会の日程について

**第5回 2008年10月9日(木) 14:00~17:10 於: 明治大学**

1. 2008年度研修会参加者数について(最終確認)
2. 2008年度研修会準備状況について(最終確認)
3. 会員以外の参加資格について
4. 第6回以降の研修委員会の日程について

**第6回 2008年11月14日(金) 15:00~17:00 於: 慶応義塾大学**

1. 2008年度研修会をふりかえって
2. 2009年度研修委員会予算について
3. 第7回以降の研修委員会の日程について

**第7回 2008年12月11日(木) 15:00~17:00 於: 東京農業大学**

1. 2009年度研修会について
2. 2009年度研修会会場候補の現地検分について
3. 2009年度研修委員会関係予算について(再)
4. 第8回の研修委員会の日程について

**第8回 2009年3月19日(木) 14:00~17:00 於: 東京経済大学**

1. 2009年度研修会について
2. 運営委員会報告
3. 委員の交代について(研修委員会事務引継報告)
4. 2009年度第1回以降の研修委員会の日程について

**5. 研修会**

2008年度研修会

日時: 2008年10月23日(木)~24日(金)

会場: 明治大学中央図書館

参加者: 98校 114名

テーマ: 図書館評価 —図書館サービスを自己満足で終わらせないために—

内容:

第1日(10月23日)

基調講演 「図書館評価のツボと落とし穴」

慶応義塾大学 文学部教授

糸賀 雅児

- 講演 「国立大学図書館と評価の仕組み」  
名古屋大学附属図書館 情報管理課課長補佐 蒲生 英博
- 講演 「利用者の視点からの図書館サービス評価」  
慶應義塾大学 文学部非常勤講師 須賀 千絵

第2日（10月24日）

- 事例報告 「学生の情報リテラシーに与える図書館利用教育の効果：  
国際基督教大学における評価の試み」  
国際基督教大学図書館 館長代行 畠山 珠美
- 事例報告 「明治大学図書館「図書館活用法」プログラム評価活動」  
明治大学図書館評価チーム
- 事例報告 「指定管理者による千代田図書館運営の評価と指標」  
千代田図書館 サービスプロデューサー 梶川 悦子
- 講演 「電子図書館評価を意識したシステム設計」  
筑波大学図書館情報メディア研究科 准教授 宇陀 則彦

6. 研究分科会

以下の11研究分科会が、月例研究会、夏期研究合宿等の活動を行った。

（2008年4月1日～2010年3月31日）

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| (1) 分類研究分科会         | (7) 西洋古版本研究分科会           |
| (2) 逐次刊行物研究分科会      | (8) 企画広報研究分科会            |
| (3) パブリック・サービス研究分科会 | (9) 和漢古典籍研究分科会           |
| (4) 図書館運営戦略研究分科会    | (10) 情報リテラシー教育研究分科会      |
| (5) レファレンス研究分科会     | (11) Lラーニング学習支援システム研究分科会 |
| (6) 理工学研究分科会        |                          |

2008年度休会：北海道地区研究分科会  
相互協力研究分科会

研究分科会月例会担当理事校 國學院大學  
研究分科会更新担当理事校 共立女子大学

# 《2008 年度研究分科会活動報告》

## 1. 分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：7名

会 員：伊藤 民雄（実践女子大学） 上條 庸子（女子栄養大学）  
小林 美佐（昭和女子大学） 鈴木 学（日本女子大学）  
高澤 玲子（獨協大学） 田中 環（文化女子大学）  
藤倉 恵一（文教大学）

年会費：なし

例会開催回数：11回（合宿1回含む）

延べ参加者数：75名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/bunrui/>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

件名、シソーラス、Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究という基本テーマとする。

今期は、「分類する」ということはどういうことか、人間の思考や思想に根ざした「分類」の基本についてまず検討し、翻って、現代の図書館分類法が抱える問題や分類実務における困難について再考することをメインテーマとする。

並行して、現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の日本十進分類法（NDC）新訂 10 版の試案が公表されれば、その検討や批評も予定する。

#### 2) 活動の概要

分類研究分科会は 2 年間に(1) 研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える、(2) 主たる研究テーマの研究・検証を行う、(3) 研究成果の発表および総括 の 3 つの期間に分けて活動する。

#### 2. 1) 第 1 期 「分類」の基本の再確認

第 1 期の活動として、以下の文献の精読を行った（2008 年 5 月～2009 年 2 月）。

- ・ 「分ける」こと「わかる」こと / 坂本賢三著 講談社, 2006, 226p. (講談社学術文庫)
- ・ 分類の発想：思考のルールをつくる / 中尾佐助著 朝日新聞社, 1990, 331p. (朝日選書)
- ・ 分類学からの出発：プラトンからコンピュータへ / 吉田政幸著 中央公論社, 1993, vi, 200p. (中公新書)

特に前半は、思想の分類や動植物の分類、規格としての分類など、図書館における「分類」という考え方からは大きく離れたこともあり、かつ哲学・宗教観に基づく分類の論述が多かったことから内容の理解に苦労したが、物事を多面的にとらえるということについて、会員の共通理解のための土壌が形成されたと思う。

#### 2. 2) 夏期研究合宿

夏期研究合宿は、第 1 期と第 2 期にそれぞれ関連して、以下の文献の精読を行った。

## ア. 図書館分類・主題分析の周辺

「情報の科学と技術」に掲載された最近の分類・主題分析特集の中から、図書館分類だけでなく「分類」「主題」にまつわる以下の文献を検討した。

- ・ 山崎久道 図書館・情報サービスにおける分類的思考の意義 情報の科学と技術 58(2), p.46-51 2008.2
- ・ 馬渡峻輔 生物を分類するとはどういうことか 情報の科学と技術 58(2), p.52-56 2008.2
- ・ 鯨井秀伸 ICONCLASS：イコノグラフィ的分類システム 情報の科学と技術 58(2), p.57-63 2008.2
- ・ 福嶋聡 「分類」と「進化」 情報の科学と技術 58(2), p.71-77 2008.2
- ・ 緑川信之 フォークソノミーの新奇性はどこにあるのか 情報の科学と技術 57(5), p.238-243 2007.5
- ・ 岸田和明 インターネット時代における統制語彙の意義と役割 情報の科学と技術 57(2), p.62-67 2007.2
- ・ 嶋田真智恵 国立国会図書館件名標目表(NDLSH)の改訂作業と今後について 情報の科学と技術 57(2), p.73-78 2007.2
- ・ 棚橋佳子, 宮入暢子 統制語索引と自然語検索を補完する Citation Semantic の効用 情報の科学と技術 57(2), p.79-83 2007.2
- ・ 石田栄美 テキスト自動分類の概要 情報の科学と技術 56(10), p.469-474 2006.1
- ・ 横井俊夫 セマンティック Web：コンピュータが理解できるメタデータ 情報の科学と技術 54(12), p.640-646 2004.12

## イ. 図書館分類・知識組織の根幹

目録・分類に関する現況をまとめた最近のテキストの中でよくまとまっているものを採りあげた。また、著者の一人（分科会 OB）を交えて、分類部分について踏み込んで討議した。

- ・ 資料組織概説 / 田窪直規 [ほか] 共著 -- 三訂 樹村房, 2007, xvi, 199p. (新・図書館学シリーズ)

### 2. 3) 第2期 図書館実務における「分類」の問題点

第2期の活動として、「図書館雑誌」2008年10月号より公開が開始された「日本十進分類法新訂10版試案の概要」について、新訂9版の試案やそれに対する批評、批評を受けて実際に刊行された9版と10版試案の差異を検討することと、可能な範囲でそれを批評する研究を開始した（2009年2月～）。

なお、分類委員会では誌面に限りのある「図書館雑誌」への掲載と並行して、分類委員会ホームページにおいてより詳細な試案(PDF版)を公開している<sup>1)</sup>。分科会での検討は、このPDF版を検討の対象としている。

## 資料

### 1) 刊行物

特になし。

計画していた分類研究分科会設立50周年記念シンポジウムの記録について、調整のうえ次年度早期の刊行を目指す。

## 2) 事業

### ア. TP&Dフォーラム 2008 (第 18 回整理技術・情報管理等研究集会) の共催

1991年に日本図書館研究会整理技術研究グループ(現・情報組織化研究グループ)により始められた TP&D フォーラムは、第 2 回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2008 年度は大阪で開催され、分科会からは藤倉・鈴木・高澤の 3 名が出席した。

フォーラムの参加者は教員、図書館員、データベース業者などさまざまであり、これに分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握、(2) 分野を同じくする教員や研究者との交流、(3) この分野の研究基盤継承への貢献 であるといえる。

なお、2009 年度は 8 月 29・30 日に東京にて開催される予定である。

### イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007 年度より、分類研究分科会を代表して藤倉が NDC の編纂に携わっている。これによって、分類研究分科会での研究成果を多少なりとも NDC の編纂に役立てることができ、逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

なお、第 2 期の活動の中心となる NDC 試案に対する批評については、編纂者としての立場とは直接無関係な活動として実施・公表する予定である。

(文責・藤倉恵一)

注：

1) 日本図書館協会分類委員会ホームページ <http://www.jla.or.jp/bunrui/index.html>

## 2. 逐次刊行物研究分科会

代表者：小室 啓子（文教大学）

会員数：4 大学 4 名（正会員 3 名 個人会員 1 名）

会 員：小室 啓子（文教大学）

菊地 秀明（跡見学園女子大学）

森永 瑞穂（和光大学）

三上 彰（桜美林大学）

年会費：なし

例会開催回数：11 回（夏期集中研究会含む）

延べ参加者数：52 名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org./e-kenkyu/chikukan/>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

- ・電子ジャーナル、オンラインデータベースの導入・管理運用についての研究
- ・学術資料としての逐次刊行物の資料収集・保存にともなう諸問題の研究
- ・逐次刊行物の効果的な選定基準と蔵書構成についての研究

#### 2) 活動の概要

今期参加会員の興味ある問題を中心に活動をおこなった。

電子ジャーナルやオンラインデータベースの導入にともなう、逐次刊行物の蔵書構築の変容について、各大学の現状を報告しあい、問題点等について議論した。各会員の逐次刊行物の選書基準についての関心も高いため、さらにこれを研究対象として、後期活動に向けて現状調査をおこなっていく予定である。

また、専門図書館の見学や他の分科会会員等の図書館関係者との交流活動も積極的におこなった。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

4 月例会（第 519 回）4 月 15 日（金） 文教大学湘南図書館

- ・自己紹介
- ・2006－2007 年度研究分科会活動報告
- ・本年度研究分科会活動計画の検討
- ・文教大学湘南図書館見学

5 月例会（第 520 回）5 月 15 日（水） 和光大学附属梅根記念図書館

- ・事務連絡
- ・前年度研究分科会活動「オープンアクセス入門」発表報告
- ・研究テーマの検討
- ・夏期集中研究会の実施内容についての検討
- ・逐次刊行物の業務全般についての情報交換
- ・和光大学附属梅根記念図書館見学

6 月例会（第 521 回）6 月 19 日（木） 文教大学越谷図書館

- ・事務連絡

- ・自館における逐次刊行物調査報告Ⅰ  
「逐次刊行物（EJを含む）の選定基準等についてⅠ」
- ・夏期集中研究会の訪問機関・実施日程の検討
- ・文教大学越谷図書館見学

7月例会（第522回）7月10日（木） 東京ビッグサイト

- ・事務連絡
- ・自館における逐次刊行物調査報告Ⅱ  
「逐次刊行物（EJを含む）の選定基準等についてⅡ」
- ・国際ブックフェア見学

8月夏期集中研究会（第523回）8月28日（木） 国立国会図書館東京本館

- ・国立国会図書館見学
- ・逐次刊行物を中心とした資料の保存・管理に関する意見交換  
7大学15名参加

9月夏期集中研究会（第524回）9月29日（月） 東京都環境科学研究所

- ・東京都環境科学研究所資料室見学
- ・逐次刊行物を中心とした資料の保存・管理に関する意見交換  
3大学3名参加

10月例会（第525回）10月23日（木） 和光大学附属梅根記念図書館

- ・事務連絡
- ・雑誌の選定基準について
- ・『逐次刊行物研究分科会報告』第58号抄読
- ・研究分科会活動中間報告の発表準備

11月例会（第526回）11月14日（金） 東京経済大学

- ・事務連絡
- ・研究分科会活動中間報告のまとめ  
2008年度研究内容の確認  
夏期集中研究の成果について
- ・研究分科会活動の今後について  
電子ジャーナル購読に関わる逐次刊行物の蔵書構築  
－購読契約、資料保存をめぐって－
- ・研究分科会報告集の編集について

12月例会（第527回）12月18日（木） 桜美林大学図書館

- ・事務連絡
- ・蔵書構築に関する調査Ⅰ
- ・桜美林大学図書館見学

1月例会（第528回）1月26日（木） 文教大学湘南図書館

- ・事務連絡
- ・蔵書構築に関する調査Ⅱ

3月例会（第529回）3月10日（火） 跡見学園女子大学新座図書館

- ・事務連絡
- ・蔵書構築に関する調査Ⅲ
- ・跡見学園女子大学新座図書館見学

## 2) 刊行物及び事業

今年度は特になし

### 3. パブリック・サービス研究分科会

代表者：瀬戸山雄介（学習院大学）

会員数：17校18名（個人会員含む）

会 員：中島真由美（桜美林大学）

小室 茜（学習院大学）

瀬戸山雄介（学習院大学・代表）

千家 慶子（國學院大學・副代表）

北原恵美子（相模女子大学・会計担当）

山口 美奈（実践女子大学・合宿担当）

東家 由朗（上智大学・個人会員）

塩瀬 雅博（女子栄養大学）

伊東 康子（女子美術大学）

矢ヶ崎理紗（成城大学・副代表）

川端 美月（多摩大学）

植苗 翔（中央大学・合宿担当）

寺久保明子（東海大学）

小松 泰亮（東京家政学院大学・個人会員）

西嶋 優（東京農業大学）

小松 久美（日本赤十字看護大学）

椎名ちか子（明治学院大学・個人会員）

清水 滋文（和光大学・HP担当）

年会費：8,000円（機関会員） 4,000円（個人会員）

例会開催回数：10回

延べ参加人数：約160人

ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/public/index.htm>

#### 活動

##### 1) 基本テーマ

知識と情報の共有化を目的に、講義を通じて図書館業務を遂行する上で必要とされる知識・技能の修得に努める。また、大学図書館を取り巻く環境の変化について、国内外の情報を収集・理解・分析し、今後の日本の大学図書館の方向性を確認する。

##### 2) 活動の概要

基本的には講義とグループ研究の2本立てで実施した。4月～7月は講義中心の活動であったが、夏期研究合宿以降は会員それぞれの問題意識をグルーピングし、研究グループを立ち上げ、各グループで研究活動を行った。また、会員が所属する図書館見学も積極的に行った。

###### ①講義

ファシリテーターである慶應義塾大学の加藤好郎氏と連携して、毎回の定例会の講義テーマを決定し、そのテーマに沿った講師を招聘し、受講した。今年度は図書館評価、機関リポジトリ、コンソーシアム、著作権等の講義を受講した。

###### ②グループ研究

研究テーマを絞り込み、ファシリテーターの加藤好郎氏のアドバイスを得ながら、各テーマに分かれて研究活動を行った。現状での研究テーマは下記の通りである。

- ・学生サービスとしての図書館サービス
- ・主題書誌作成と蔵書評価

- ・ 図書館協力
- ・ 場としての図書館

## 資料

### 1) 月例会テーマ

4 月例会：4 月 14 日（月）13：00～17：00 慶應義塾大学（三田）

- ①「PS 分科会の活動について：図書館員としての共通認識として」

慶應義塾大学国際センター事務長 加藤好郎氏

5 月例会：5 月 12 日（月）14：45～18：00 慶應義塾大学（三田）

- ①「アウトソーシング時代における大学図書館の戦略：サブジェクトライブラリアンになるために」

慶應義塾大学国際センター事務長 加藤好郎氏

- ②「図書館における評価活動：慶應義塾大学の事例」

慶應義塾大学理工学メディアセンター 上岡真紀子氏

6 月例会：6 月 9 日（月）14：45～18：00 慶應義塾大学（三田）

- ①「大学図書館の評価手法と評価結果の利用法」

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

- ②「図書館における評価活動 - LibQUAL、テキサス A&M 大学の事例」

慶應義塾大学理工学メディアセンター 上岡真紀子氏

7 月例会：7 月 14 日（月）10：30～16：30 慶應義塾大学（湘南藤沢）

- ①慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンター見学

- ②「機関リポジトリ（Institutional Repository）と大学図書館」

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

- ③「e-KAMO と KOARA 慶應義塾大学におけるリポジトリへの取り組み」

慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンター 木下和彦氏

夏期研究合宿：8 月 25 日（月）～27 日（水） 石和温泉旅館（山梨）

- ①「大学図書館を魅力的な教育現場にするには：今後の図書館員、情報資源、財政基盤とは」

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

10 月例会：10 月 20 日（月）10：00～17：00 東京農業大学（世田谷）

- ①「東京農業大学における資料電子化の取り組みについて～明治・大正期卒業論文の保存と公開を中心に～」

東京農業大学学術情報センター事務室長補佐 出町 明氏

- ②東京農業大学図書館見学

- ③「図書館経営からみたリスクマネジメント（危機管理）」

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

- ④「慶應義塾図書館における和装本研修と和漢古書目録作成プロジェクトについて」

慶應義塾大学斯道文庫准教授 高橋 智氏

慶應義塾大学三田メディアセンター 筒井利子氏

11 月例会：11 月 10 日（月）10：30～17：00 慶應義塾大学（湘南藤沢）

- ①「大学図書館におけるコンソーシアムの歴史とそのライフサイクル」  
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏
- ②「図書街プロジェクト」  
慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科教授 金子郁容氏

**12月例会**：12月8日（月）10：00～17：00 國學院大學（渋谷）

- ①「國學院大學の研究支援」  
國學院大學学術メディアセンター事務部図書館事務課長 古山悟由氏
- ②「法政大学のゼミサポート制について」  
法政大学図書館事務部市ヶ谷事務課 上田直人氏
- ③「大学図書館における著作権問題：その現状と今後」  
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏
- ④國學院大學図書館見学

**1月例会**：1月26日（月）10：30～17：00 慶應義塾大学（湘南藤沢）

- ①「世界のトップの大学を目指して：大学図書館のすべきこと」  
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

**3月例会**：3月9日（月）10：30～17：00 学習院大学

- ①学習院大学法学部・経済学部図書センター見学
- ②「学習院大学図書館の経営戦略」  
学習院大学図書館次長兼総務課長 鈴木宗一氏

#### 4. 図書館運営戦略研究分科会

代表者：櫻井 友美（国土館大学）

会員数：3校 3名

会 員：小生方 麻里（麗澤大学） 関口 千登世（城西大学）

年会費：なし

例会開催回数：11回（夏期集中研究会含む）

延べ参加者数：34名

分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/senryaku/index.htm>

#### 活動

##### 1) 基本テーマ

各大学図書館における「中・長期構想」の作成に携わることを想定し、それに見合う図書館運営への意識を育成することを目指す。

##### 2) 活動の概要

図書館業務について多面的に考察し、あるべき大学図書館像を提示することを主題とする。さしあたり、現行の図書館業務の把握と整理から始める。集会活動は、討議中心に「情報の交換」「現状の把握」「問題解決の方策」等に重点を置き、今後の図書館運営に携わる際の基礎能力を高める。また、今期は「図書館における危機管理」をテーマとし、図書館見学を中心に現状の把握と研究を行っていく。

#### 資料

##### 1) 月例会テーマ

4月例会 4月17日（木） 会場：国土館大学 参加者：3名

- ・ 自己紹介
- ・ 前期活動状況の説明
- ・ 今期各担当者の選出
- ・ 今期活動について（日程、研究テーマ等）
- ・ 国土館大学図書館見学

5月例会 5月15日（木） 会場：麗澤大学 参加者：2名

- ・ 事務連絡（予算引継ぎ等）
- ・ 年間活動計画について
- ・ 研究テーマについて
- ・ 麗澤大学図書館見学

6月例会 6月19日（木） 会場：城西大学 参加者：3名

- ・ 事務連絡（ホームページ運営について、7月例会について）
- ・ 夏期集中研究会について
- ・ 見学予定図書館の調査
- ・ 図書館見学に際しての研究テーマについて
- ・ 城西大学図書館見学

7月例会 7月17日（木）

会場：品川グランドセントラルタワー THE GRND HALL 参加者：2名  
エルゼビア・ジャパン(株)主催「ライブラリ・コネクト・セミナー2008」参加  
「大学の図書館に対する投資：その見返りは？」などを聴講

夏期集中研究会 8月25日(月)、8月26日(火)

「図書館における危機管理」をテーマとした研修・図書館見学を実施した

第1日目 8月25日(月) 会場：千代田図書館 参加者：3名

- ・ 千代田図書館を訪問 案内による見学および質疑応答

第2日目 8月26日(火) 会場：多摩美術大学図書館 東京女子大学図書館

参加者：3名

- ・ 多摩美術大学図書館を訪問 案内による見学および質疑応答
- ・ 東京女子大学図書館を訪問 案内による見学および質疑応答

9月例会 9月24日(木) 会場：(株)東芝 研究開発センター 参加者：3名

- ・ 事務連絡(11月開催の研究交流会の発表について、10月例会について)
- ・ 東芝 研究開発センター図書館を訪問 質疑応答および案内による見学
- ・ 併設の東芝科学館見学

10月例会 10月16日(木) 会場：味の素 食の文化ライブラリー

参加者：3名

- ・ 味の素 食の文化ライブラリーを訪問 質疑応答および案内による見学
- ・ 併設の食文化展示室、食と暮らしの小さな博物館見学

11月例会 11月28日(金) 会場：パシフィコ横浜 参加者：3名

- ・ 第10回図書館総合展の展示見学
- ・ 紀伊國屋書店主催セミナー  
「図書館とライブラリアンを元気に変える」を聴講
- ・ 各自その他のセミナーを聴講

12月例会 12月4日(木) 会場：国士舘大学 参加者：3名

- ・ 事務連絡(次回以降の活動予定について、年度末提出の報告書について)
- ・ 図書館総合展の参加報告
- ・ クレーム対応についての探求課題の絞り込み
- ・ 今後の活動予定と方向性について

1月例会 1月21日(水) 会場：麗澤大学 参加者：3名

- ・ 事務連絡(年度末提出の活動報告書・会計報告書について)
- ・ クレーム対応についての学習今後の研究内容について
- ・ 麗澤大学図書館見学

2月例会(休会)

3月例会 3月4日(水) 会場：筑波大学 参加者：3名

- ・ 平成20年度茨城県図書館協会大学図書館部会研修会  
「行列のできる図書館の作り方 ～学生の図書館利用促進、学習支援を考える～」に参加
- ・ 筑波大学図書館見学
- ・ 事務連絡(年度末提出の活動報告書・会計報告書のまとめと確認等)

## 2) 刊行物および事業

なし

## 5. レファレンス研究分科会

代表者：小坪 守（立教大学図書館）

会員数：7名

会 員：毛利 昭（武蔵大学図書館）  
井口良子（國學院大學図書館）  
横田地妙（創価大学図書館）  
藤原美佳（駒澤大学図書館）  
小幡誉子（大正大学附属図書館）  
近藤裕子（専修大学図書館）

年会費：1,000円

例会開催回数：10回

延べ参加者数：70名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/reference/>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

レファレンスサービスと情報リテラシー教育との連携、および「学習支援」の場としてのラーニングコモンズについて

#### 2) 活動の概要

会員校の相互理解を目的とし、会員校それぞれのレファレンスサービスの現状、レファレンス担当者業務の中で大きなウェイトを占める情報リテラシー教育や「学習支援」の場としての図書館環境の整備について意見交換を行った。また、それらに関連した、独自性のある大学図書館の取り組みについての事例調査を行った。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

4月例会 4月23日（水）／立教大学

内容：

1. 今期の分科会運営方法について
2. 各業務担当者と代表者の選出について
3. 今後の研究活動や研究テーマについて
4. 図書館見学

5月例会 5月29日（木）／専修大学

内容：

1. 各大学の情報リテラシー教育の取組
2. 今後の研究活動や研究テーマについて
3. 図書館見学

6月例会 6月27日（金）／駒沢大学

内容：

1. 各大学の情報リテラシー教育の取組
2. 夏季研究合宿について
3. 今後の研究活動や研究テーマについて
4. 図書館見学

7月例会 7月14日(月) / 國學院大學横浜たまプラーザキャンパス

内容:

1. 夏季研究合宿について
2. 研究活動・研究テーマについて
3. 國學院大學図書館事務課横浜たまプラーザ林担当課長講演
4. 図書館見学

夏期集中研究会 9月4日(木)、5日(金) / 立教大学、横浜国立大学附属図書館

内容:

1. ラーニングコモンズについての文献調査
2. 図書館(ラーニングコモンズ)見学(横浜国立大学附属図書館)

10月例会 10月6日(月) / 武蔵大学

内容:

1. 2008年度研究会(交流会) 研究分科会活動中間報告について
2. 研究テーマ「ラーニングコモンズ」について
3. 図書館見学

11月例会 11月12日(水) / 創価大学

内容:

1. 事務連絡
2. 交流会発表
3. 図書館見学

12月例会 12月10日(水) / 立教大学

内容:

1. 事務連絡
2. 今後の研究活動について
3. 米国大学図書館視察報告(立教大学)

1月例会(専門機関探訪) 1月27日(火) / 法政大学・明治大学

内容:

1. 法政大学図書館の情報リテラシー教育取り組み視察
2. 明治大学図書館の情報リテラシー教育取り組み視察

3月例会 3月11日(水) / 大正大学

内容:

1. 事務連絡
2. 今後の研究活動について
3. 図書館見学

## 2) 刊行物及び事業

ニュースレター発行

掲載内容は、前回例会の記録、次回例会のレジュメ、図書館見学記等  
現役会員とOB・OG(購読希望者)向けにメールにて配信

## 6. 理工学研究分科会

代表者：小林瑞希（中央大学）

会員数：3名（正会員：3名）

会 員：小林瑞希（中央大学）  
内山光子（日本大学）  
平田さくら（明治大学）

年会費：なし

例会開催回数：3回

延べ参加者数：3人

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/rikogaku/>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

理工系資料の研究と探索法

#### 2) 活動の概要

- ・ 電子ジャーナルや各種データベースを中心にした理工系ガイダンスモデルを探る。
- ・ 理工系の学生に特化したガイダンスや電子ジャーナル等の情報交換を行う。
- ・ 2007年度までに作成した理工学文献探索ガイダンスの内容充実を図る。
- ・ シナリオの作成やアニメーションの追加を行いバージョンアップしたデータベースの内容修正を行う。
- ・ データベース・電子ジャーナルのPPを新規作成し、ガイダンスモデルに追加する。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

6月例会　　6月27日　日本大学（船橋校舎）参加者3名  
文献ガイダンス研究の作成PPの状況確認  
理工系データベース講習会等の情報交換  
日本大学理工学部図書館　見学

10月例会　　10月28日　明治大学（生田校舎）参加者3名  
文献ガイダンス研究の作成PPの変更点の確認等  
作成データベース「Rikoo!」の運用について

3月例会　　3月11日　中央大学（後楽園キャンパス）参加者3名  
文献ガイダンス研究の作成PPの状況確認・変更点の確認等

#### 2) 刊行物及び事業

「理工学文献探索データベース Rikoo!」 <http://www.rikoo.jp/index.php>

## 7. 西洋古版本研究分科会

代表者：坪谷 卓浩（日本体育大学）

副代表者：泉 浩三（東京薬科大学）

会員数：6名

会員：上田 健一（獨協大学）

齊藤 理香（中央大学）

中島 悠史（文化女子大学）

福本恵美子（女子栄養大学）

年会費：1500円

例会開催回数：10回（夏季集中研究会を含む）

延べ参加人数：62名

研究分科会ホームページ URL：[http://www.jaspul.org/e-kenkyu/early\\_p\\_book/](http://www.jaspul.org/e-kenkyu/early_p_book/)

### 活動

#### 1) 基本テーマ

- ① 西洋古版本に関する書誌学的研究（書誌学的知識の習得をも含む）
- ② 資料収集、整理、保存、展示など、図書館で実際に古典資料を扱う際に必要な知識の習得

#### 2) 活動の概要

まず始めに、西洋古版本の記述書誌に関する基本的文献を読みながら、記述書誌に関する用語の確認を行った。それらの知識を基に、各自が所属する機関で所蔵している古典資料について、個人研究・発表を行った。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

##### 4月例会

4月15日（火） 成城大学 参加者8名

- ① 前年度からの引継ぎ
- ② 図書館見学

##### 5月例会

5月13日（火） 日本体育大学 参加者6名

- ① 前年度研究発表の紹介
- ② 今年度の活動計画
- ③ 図書館見学

##### 6月例会

6月10日（火） 東京薬科大学 参加者6名

- ① 合宿内容検討
- ② 折記号調査実習
- ③ 東京薬科大学所蔵貴重書閲覧

##### 7月例会

7月8日（火） 文化女子大学 参加者6名

- ① 夏季集中研究会打ち合せ

- ② 標題紙の擬似ファクシミリ実習
- ③ 図書館見学ならびに文化女子大学所蔵貴重書閲覧

#### 9月夏季集中研究会

9月1日(月)～2日(火)

精興社、東京修復保存センター (TRCC)、中央大学図書館

参加者(延べ人数) : 12名

- ① 精興社青梅本社見学
- ② 東京修復保存センター (TRCC) 見学
- ③ 中央大学図書館では、はじめに高野彰著『洋書の話』増補版の輪読を行った。また、中央大学図書館が所蔵しているトマス・ホブズ著『リヴァイヤサン』Head版を閲覧し、前期の研究発表で用いた記述書誌と照らし合わせて確認した。最後に、中央大学図書館を見学した。

#### 10月例会

10月21日(火) 獨協大学 参加者6名

- ① 『書物5000年II』第1巻によるビデオ学習
- ② 書物の書き込み (Inscription) について
- ③ 図書館見学ならびに獨協大学所蔵貴重書閲覧

#### 11月例会

11月7日(金) 印刷博物館、早稲田大学中央図書館 参加者6名

- ① 印刷博物館見学ならびに活版印刷体験
- ② 早稲田大学中央図書館見学
- ③ 展覧会「早稲田大学図書館所蔵西洋古版本展：ルネサンスの書物とパラーディオ『建築四書』」見学

#### 1月例会

1月28日(水) 女子栄養大学 参加者6名

- ① 個人研究発表1
- ② 個人研究発表2
- ③ 図書館見学ならびに女子栄養大学所蔵貴重書閲覧

#### 2月例会

2月20日(金) 東京薬科大学 参加者6名

- ① 個人研究発表3
- ② 個人研究発表4
- ③ 書見台作成実習

#### 3月例会

3月23日(月) 東京薬科大学 参加者6名

- ① 個人研究発表5
- ② 個人研究発表6
- ③ 保存箱作成実習

## 2) 刊行物及び事業

なし

## 8. 企画広報研究分科会

代表者：武尾亮（女子栄養大学）

会員数：4名（正会員：3名／ML ネット会員：1名）

会 員：重光崇（女子美術大学）

武尾亮（女子栄養大学）

南夏紀（獨協大学）

真島絵里子（東洋学園大学）ML ネット会員

年会費：2,000 円（正会員） / 1,000 円（ML 会員）

例会開催回数：11 回（夏期集中研究会含む）

延べ参加者数：38 名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

図書館広報研究と共同利用ツールの開発・運用、及びパスファインダーバンクの運営管理

#### 2) 活動の概要

- ①前期で作成・販売した広報グッズについて、購入館を対象にアンケート調査を実施した
- ②パスファインダーバンクの拡充を図り、各大学図書館サイトを調査した
- ③新規作成の広報グッズの検討
- ④広報グッズについての原稿執筆（編集部からの依頼による。『大学図書館研究』第 85 号掲載予定）
- ⑤国立大学図書館協会東京地区・関東甲信越地区合同事業「ad！ライブラリー ～大学図書館効果的広報戦略～」にて事例報告（2008 年 1 月 29 日（木）、於・東京大学総合図書館 報告者：武尾亮）

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

##### 4 月例会

2008 年 4 月 25 日（金） 学習院大学

- ・ 分科会活動内容についての説明
- ・ 業務担当者の決定、前期会員よりの引継ぎ

##### 5 月例会

2008 年 5 月 23 日（金） 女子栄養大学

- ・ 2008 年活動計画の立案
- ・ パスファインダーバンクの運営と管理について検討

##### 6 月例会

2008 年 6 月 27 日（金） 獨協大学

- ・ パスファインダー公開状況の調査範囲・分担決め
- ・ 広報グッズの在庫について、販売方法を検討
- ・ 夏期集中研究の実施時期・内容の検討

## 7月例会

2008年7月18日（金） 女子栄養大学

- ・ 広報グッズ再販売用チラシの発送作業
- ・ 広報グッズ購入館に向けてのアンケート項目を検討
- ・ 夏期集中研究の詳細決定

## 8月例会

2008年8月29日（金） 獨協大学

- ・ 広報グッズ購入館へのアンケート発送作業
- ・ 分科会サイト Lib.PR の充実について

## 夏期集中研究会

2008年9月4日（木） 見学（お茶の水女子大学附属図書館、広告図書館）

9月5日（金） 女子美術大学短期大学部

- ・ 4日... 見学（お茶の水女子大学附属図書館、広告図書館）
- ・ 5日... パスファインダーの作成

## 10月例会

2008年10月17日（金） 東洋学園大学（流山キャンパス）

- ・ 広報グッズ発送作業
- ・ パスファインダー調査状況の報告

## 11月例会

2008年11月13日（木） 女子栄養大学

- ・ パスファインダーの定義について検討
- ・ 今後のパスファインダー調査について方法を検討
- ・ 2008年度研究中間報告内容の確認

## 12月例会

2008年12月19日（金） 獨協大学

- ・ 広報グッズアンケートのまとめ・公開方法の検討
- ・ 2009年の活動計画を検討

## 1月例会

2009年1月30日（金） 東洋学園大学（流山キャンパス）

- ・ 広報グッズ発送作業
- ・ パスファインダー調査・登録依頼について、進行状況を確認
- ・ 新規作成の広報グッズについて、内容検討

## 2月例会

2009年2月27日（金） 女子栄養大学

- ・ パスファインダー調査・登録依頼について、進行状況を確認
- ・ 新規作成の広報グッズについて、内容検討

## 2) 刊行物及び事業

- ・ 今年度は特になし

## 9. 和漢古典籍研究分科会

代表者： 井上玲子（中央大学）

会員数： 6校6名 + 講師1名

会 員： 井上玲子（中央大学）

今枝連子（駒澤大学）

白土正子（成城大学）

鶴田香織（大東文化大学）

沼田晃佑（身延山大学）

吉田千登世（鶴見大学）

高橋良政講師（日本大学）

年会費： なし

例会開催日数： 10回（夏期研究合宿を含む）

延べ参加者数： 64名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kotenseki/aboutus.html>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

日本・朝鮮・中国で刊行された和漢古典籍についての書誌学的研究を通じて、大学図書館員としての知識を深め、目録作成等の技能の向上を図る。

#### 2) 活動の概要

- ・ 古籍・書誌学について知識を得るため、基礎的文献をテキストとして輪読。  
今年度テキスト：藤井隆著『日本古典書誌学総説』和泉書院, 1991
- ・ 会場校所蔵の古籍について、実際に調書を作成してみる。適宜講師の批評・指導を受けた。
- ・ 会場校の図書館、特に和本・唐本の見学をし、各大学の装備方法・保存方法について見聞を広めた。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

第1回：2008年4月18日（金） 於駒澤大学図書館・参加9名

- ① 会員自己紹介。2008年度運営担当者の決定、会計引継ぎ等
- ② 今年度活動方針・スケジュールの策定
- ③ 講師より調書の記入について講義

第2回：2008年5月16日（金） 於中央大学図書館・参加7名

- ① テキスト『日本古典書誌学総説』輪読
- ② 『DOCUMENTARY 和本』（発売・制作:629inc）の視聴
- ③ 調書作成

会場校所蔵の古籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第3回：2008年6月20日（金） 於鶴見大学図書館・参加6名

- ① 夏期研究合宿の日程・内容の検討
- ② テキスト『日本古典書誌学総説』輪読
- ③ 会場校図書館見学
- ④ 会場校貴重書展見学（「御馬印」「浅見覚堂文庫」）

第4回：2008年7月11日（金） 於成城大学図書館・参加6名

- ① テキスト『日本古典書誌学総説』輪読
- ② 会場校図書館見学
- ③ 調書作成

会場校所蔵の古籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第5回（夏期研究合宿）：2008年9月2日（火）～4日（木）

於身延山大学図書館・参加5名

- ①会場校図書館見学
- ②2日間に亘る調書作成実習（講師：高橋良政氏）
- ③同大望月真澄教授による講演「身延文庫の歴史と蔵書」拝聴
- ④関連諸施設見学
- ⑤和紙漉き体験学習

第6回：2008年10月17日（金） 於大東文化大学図書館・参加6名

- ①第7回以降の会場・及び輪読箇所の設定
- ②テキスト『日本古典書誌学総説』輪読
- ③会場校図書館見学
- ④会場校所蔵の和装本について、講師より講義

第7回：2008年11月21日（金） 於駒澤大学図書館・参加7名

- ①研究発表会について、内容検討
- ②テキスト『日本古典書誌学総説』輪読
- ③会場校所蔵資料（朝鮮本）閲覧・講師講義
- ④駒澤大学禅文化歴史博物館見学
- ⑤会場校図書館見学

第8回：2008年12月19日（金） 於成城大学図書館・参加5名

- ①来年度会場校持ち回りスケジュール決定
- ②補修の講習について検討
- ③テキスト『日本古典書誌学総説』輪読
- ④図書館所蔵貴重書閲覧  
「亀井孝旧蔵書」の古活字本、整版（訓点本）の閲覧・講師講義
- ⑤民俗学研究所見学

第9回：2009年1月9日（金） 於中央大学図書館・参加6名

- ①補修講習について検討
- ②研究発表について検討
- ③調書作成

会場校所蔵の古籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第10回：2009年3月12日（金） 於鶴見大学図書館・参加7名

- ①補修講習について検討
- ②研究発表について検討
- ③テキスト『日本古典書誌学総説』輪読
- ④会場校所蔵古籍について講師解説

## 2) 刊行物及び事業

なし

## 10. 情報リテラシー教育研究分科会

代表者：池田 有紀（横浜商科大学）

会員数：4名（2009年3月31日現在）

会 員：池田 有紀（横浜商科大学）

樋口 知義（東洋大学）

小海 理恵（和光大学）

水上 愛子（立教大学）

米田 暁（大東文化大学） 退会（2008年8月～）

司田 真希（東京家政大学） 退会（2008年10月～）

年会費：2,000円

例会開催数：10回（夏期集中研究会を含む）

延べ参加者数：54人

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/joholite/index.html>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

初年度教育における「情報リテラシー教育」のモデル案を作成する。

#### 2) 活動の概要

初年度教育における「情報リテラシー教育」について、大学図書館の実施状況について資料収集などを行い把握する。その結果を踏まえ、初年度教育における「情報リテラシー教育」のモデル案を作成する。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

##### 第1回月例会

開催日 2008年4月28日

会 場 立教大学池袋キャンパス内ミッチェル館会議室

テーマ

- ・ 第四期役員選出
- ・ 第三期～第四期引継ぎ業務の確認

##### 第2回月例会

開催日 2008年5月26日

会 場 和光大学附属梅根記念図書館

テーマ

- ・ 会員校図書館プロフィール・ガイダンス実施状況報告

##### 第3回月例会

開催日 2008年6月2日

会 場 横浜商科大学つるみキャンパス図書館

テーマ

- ・ 夏季集中研究の準備

##### 第4回月例会

開催日 2008年7月14日

会 場 東洋大学付属図書館川越図書館

テーマ

- ・ 夏季集中研究の準備

- ・情報リテラシー教育文献調査

夏期集中研究（第5・6回月例会）

開催日 2008年8月20日～21日

会場 東京家政大学図書館

テーマ

- ・情報リテラシー教育のガイドライン設定
- ・中間発表準備

第7回月例会

開催日 2008年10月17日

会場 立教大学図書館

テーマ

- ・立教大学図書館「図書館活用講座」についての報告
- ・中間発表準備

第8回月例会

開催日 2008年11月26日

会場 和光大学附属梅根記念図書館

テーマ

- ・ガイダンスモデル案の検討

第9回月例会

開催日 2008年12月17日

会場 立教大学図書館

テーマ

- ・ガイダンスモデル案の検討

第10回月例会

開催日 2009年3月5日

会場 横浜商科大学つるみキャンパス図書館

テーマ

- ・ガイダンスモデル案の検討

## 2) 刊行物及び事業

特になし

## 1.1.L-ラーニング学習支援システム研究分科会

代表者：阿部潤也（東京歯科大学）

会員数：5校5名

会 員：阿部潤也（東京歯科大学）

小田切夕子（麻布大学）

金子和代（早稲田大学）

田代陽子（日本女子大学）

南雲彰子（国際大学）

年会費：0円

例会開催回数：7回

延べ参加者数：35名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/lis/>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

大学図書館員の自己点検、自己評価、自己研鑽を目的とした学習支援システムの構築ならびに評価、分析

#### 2) 活動の概要

L-ラーニングに必要な学習用コンテンツを収集するためのリポジトリ構築に取り組んだ。コンテンツ収集にあたっては「大学図書館員のためのリポジトリに関するアンケート」を実施し、コンテンツ提供の協力を求めるとともに、私立大学における機関リポジトリ構築に関する意識調査も実施した。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

第1回例会

2008年4月15日（火）13:00-18:00 東京歯科大学（水道橋キャンパス）

1.事務連絡 2.リポジトリに関するアンケートについて 3.XooNIpsについて

第2回例会

2008年6月24日（火）13:00-18:00 東京歯科大学（水道橋キャンパス）

1.事務連絡 2.今期活動計画について 3.リポジトリアンケートについて

4.XooNIpsについて 5.当面の予定について 6.その他

第3回例会

2008年7月8日（火）13:30-17:00 東京歯科大学（水道橋キャンパス）

1.リポジトリ・アンケート発送作業 2.今後の作業と担当者について

第4回例会

2008年8月19日（火）10:00-18:00 麻布大学

1.事務連絡 2.リポジトリに関するアンケートの集計結果

第5回例会

2008年10月17日（金）13:00-17:40 早稲田大学

1.事務連絡 2.アンケート結果分析 3.中間報告準備 4.今後のシステム構築について

5.図書館見学

## 第6回例会

2009年01月23日(金) 13:30-18:20 日本女子大学(目白キャンパス)

- 1.事務連絡
- 2.リポジトリ運用について
- 3.学習支援システムとの連携について
- 4.宿題と今後

## 第7回例会

2009年03月17日(火) 13:00-17:45 早稲田大学(早稲田キャンパス)

- 1.事務連絡
- 2.リポジトリ運用について
- 3.アンケート運用について
- 4.コンテンツ収集について
- 5.リポジトリから学習支援システムへの展開について

## 2) 刊行物及び事業

【TakaQによるLラーニング】

<http://www.l-learning.jp/takaq/>

【XoopsによるLラーニング】

<http://www.l-learning.jp/xoops/>

【MoodleによるLラーニング】

<http://www.l-learning.jp/moodle/>

【携帯電話によるLラーニング】

<http://www.l-learning.jp/i/>

【大学図書館のためのリポジトリ】

<http://www.l-learning.jp/xoonips/>

【L-ラーニングとは】

図書館員のリテラシーやスキルアップのための自己学習を”L-ラーニング”と命名した。これは、e-ラーニング(WBT=Web-Based Training)を利用したオンライン教育の手法をヒントに考え出した造語である。L-ラーニングのLはLibrary Librarian Literacyをイメージしている。

《研究分科会刊行物一覧》

分科 会名	分 類 研究分科会	逐次刊行物 研究分科会	パブリック・サービス 研究分科会	図書館運営戦略 研究分科会
書名 又は 誌名	なし	逐次刊行物研究分科会 報告	なし	なし
刊行 頻度		隔年（各期で）1回 *2006/2007年度は未刊行 2008年度以降は未定		
価格		2,000円 （最新号59号）		
発行 部数		200部		
配布 対象 ・ 頒布 方法 ・ 在庫		継続購読（大学図書館 等）約100。 代金支払は銀行口座振 込。 会員や当該号執筆者へ は無料で頒布。 在庫は要確認。 57号より一部について 分科会HP上で公開。		
発行 目的 ・ 主な 内容		逐次刊行物にかかわる 研究の公表および分科 会の活動報告。 会員の研究発表や講演 録、分科会活動の概要 報告等。		
コメ ント ・ 今後 の 刊行 予定		逐次刊行物研究分科会 HPにて、第57号より一 部公開、第59号より全 文公開。 2006/2007年度は未刊 行。 2008年度以降は未定。		

分科 会名	レファレンス 研究分科会		理 工 学 研究分科会	西 洋 古 版 本 研究分科会
書名 又は 誌名	レファレンス研究分科 会ニュース	レファレンス研究分科 会報告	なし	なし
刊行 頻度	月1回	隔年1回（各期で1回） ※2009年度発行予定		
価格	無料	無料		
発行 部数		100部		
配布 対象 ・ 頒布 方法 ・ 在庫	分科会会員、OB・OG会 員（購読希望者）宛て に、メール添付文書に て配信。	分科会会員、分科会会 員所属機関、途中退会 した会員、OB・OG会 員、国会図書館、専門 機関探訪で訪問した機 関などに配布。 在庫は数十部。		
発行 目的 ・ 主な 内容	事務連絡、前回例会の 記録、次回例会のレ ジュメ、図書館見学記 等。	共同研究、専門機関探 訪記、講演記録、文献 レビュー一覧等。		
コメ ント ・ 今後 の 刊行 予定				

分科 会名	企 画 広 報 研究分科会		和 漢 古 典 籍 研究分科会	情報リテラシー教育 研究分科会	ラーニング学習 支援システム 研究分科会
書名 又は 誌名	Pathfinder Bank	Lib. PR:図書館広 報 実践支援サイト	なし	なし	なし
刊行 頻度	随時更新	随時更新			
価格	無料	無料			
発行 部数					
配布 対象 ・ 頒布 方法 ・ 在庫	Webによる公開 <a href="http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/pfb/pfb_frameset.htm">http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/pfb/pfb_frameset.htm</a>	Webによる公開 <a href="http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/libpr/">http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/libpr/</a>			
発行 目的 ・ 主な 内容	目的：利用者教育に役立つ共同利用ツールの提供。 内容：図書館や研究機関等が個別に作成しているパスファインダーをWeb上に収集し、共同利用を可能にしたサイト。	目的：図書館広報に関する知識を共有し、図書館の広報活動に役立てる。 内容：利用者に伝わる広報のポイントを紹介し、さらに広報にそのまま使える便利なツールを集めたサイト。			
コメ ント ・ 今後 の 刊行 予定					

## 《2008 年度研究分科会月例会について（報告）》

研究部担当理事校 東京経済大学図書館 【2007 年度 4 月から担当】  
月例会担当理事校 國學院大學図書館 【2007 年度 4 月から担当】

### 1. 月例会・夏期研究合宿開催状況

研究分科会名称	月例会 開催数	夏期合宿（集中研究会） 開催期間
分類研究分科会	10	9 月 3 日～9 月 5 日
逐次刊行物研究分科会	9	8 月 28 日と 9 月 29 日
パブリック・サービス研究分科会	9	8 月 25 日～8 月 27 日
図書館運営戦略研究分科会	10	8 月 25 日と 8 月 26 日
レファレンス研究分科会	9	9 月 4 日と 9 月 5 日
理工学研究分科会	3（*1）	実施せず
西洋古版本研究分科会	9	9 月 1 日～9 月 2 日
企画広報研究分科会	10	9 月 4 日と 9 月 5 日
和漢古典籍研究分科会	9	9 月 2 日～9 月 4 日
情報リテラシー教育研究分科会	8	8 月 20 日と 8 月 21 日
L-ラーニング学習支援システム 研究分科会	7	実施せず

(\*1)月例会以外、メーリングリスト投稿本数：63 本

夏期合宿・集中研究会（夏期合宿 4、集中研究会 5、実施せず 2）

### 2. 2008 年度中の動き

本年度は分科会の新規の募集の時期であったが、相変わらず参加者の減少に歯止めはかからなかった。資料組織研究分科会は会員が集まらずに廃会。メータデータ研究分科会は研究課題の終了による廃会となった。相互協力研究分科会および北海道地区研究分科会は休会となった。また、年度末の 3 月に企画広報研究分科会の会員の複数名の退会、レファレンス研究分科会の世話人交代などがあった。2009 年度は研究報告大会が予定されており、追加の募集も困難な状態である。ただ、幸いにも今期において提案された 2009 年度研修分科会には参加募集人員を上回る応募者があったことは今後の分科会活動を考える上では参考になると思われる。

### 3. 今後の課題

研究分科会は 2 年ごとに更新されるが、会員数の減少や継続会員の不在で、分科会の運営に悩んでいる代表者が多い。継続的な研究活動を行っていくためには、現行の分科会成立要件の見直し、分科会の統合などが必要であろう。2009 年度発足の研修分科会を今後どのように運営していくかも課題の一つである。また、「FRBR」・「RDA」など書誌的世界の再構築が必要な目録原則の確立が現在話題となっているように、研究対象はまだまだ裾野は広いと思われる。研究分科会のあり方を見直すために、西地区の各協議会で行っている活動なども参考に出来るのではないだろうか。経験年数にかかわらず誰もが参加しやすく、情報交換等ができる環境を提供いただけるよう、研究部にお願いしたい。

## 《2009 年度新設研修分科会について（報告）》

研究部担当理事校 東京経済大学図書館  
研究分科会更新担当理事校 共立女子大学図書館

### 【研修分科会新設までの経緯】

#### I. 2007 年度

- (1)活動中の 13 研究分科会の会員更新に当たり、締め切り時点で参加希望者は 34 校 58 名。  
(2)パブリックサービス研究分科会の二桁を除けば各研究分科会の応募者は平均 3.5 名（2～5 名）であり、参加希望者の減少傾向に歯止めがかからないことと大学図書館職員の置かれている環境下で研究分科会活動を活性化することの困難を再認識し、助成金を増額（2007 年から参加者一人当たり 5000 円：旧 1500 円）したが効果がなかった。2007 年度運営委員会で研究分科会の活性化を図るための何らかの具体的案を早急に提示する必要があるという事態を共通認識した。

#### [2007 年度動静]

- ①研究分科会新規立ち上げ希望なし ②2 研究分科会廃止決定（資料組織、メタデータ）  
③分科会の統合案も出たが成立せず ④2008/2009 年度活動は 11 分科会、2 分科会休会（相互協力、北海道地区）

#### II. 2008 年度

～研修分科会設立、募集、会員決定まで～

#### ◇2008 年 4 月 25 日（金）第 1 回運営委員会（協議）

研究分科会更新担当運営委員から、2008/2009 年度研究分科会会員の更新業務経過と結果について分科会のあり方を早急に見直す必要があること、出来れば今年度中にその具体案を示したいとの発言があり、意見交換が行われた。

運営委員会終了後、研修分科会新設案が浮上（研究部担当理事校より）

#### ◇2008 年 6 月 13 日（金）東地区部会総会

#### [ 2008 年度事業計画についての質疑応答（概要） ]

質問：研究分科会の活動について、廃会 2 分科会については致し方ないとして、今期 13 分科会の参加者数について、少人数では体をなさないが、例えば分科会数を減らし、大きくまとめるなど研究部役員で次期に向けた検討をしてほしい。（フロアより）

回答：分科会の再編は基本的には考えていないが、7 月の研究部運営委員会で次期に向けて提案し、来年から進めていけるような企画案をもっている。（研究部担当理事校）

#### ◇2008 年 7 月 11 日（金）第 4 回運営委員会

#### [研究分科会の見直しについて（継続協議）]

近年の研究分科会参加者の減少と継続参加率の低下等を鑑み、①運営委員（更新担当）から見直しに際しての②研究部担当理事校から新規研究分科会設立（研修分科会：仮称）についての参考資料提示があり、意見交換が行われたが結論には至らなかった。

[意見交換の内容要約]

1. 研究分科会の活性化に向けて

- ①各大学図書館の決裁権のある方に、職員に分科会の参加を促すよう要請する。
- ②非常勤職員等も分科会に参加できるような体制をつくる。
- ③経験の長い分科会代表者に今後の分科会活動の在り方についての意見を求める。
- ④分科会の現状と今後の見通しについて、活動が可能な最少人数、統合についてのアンケートを実施する（対象：新、旧研究分科会代表者）。
- ⑤参加希望者の少ない分科会を複数統合することを過去に試みたが、実際には設立目的に違いがあり困難である。

2. 新規研究分科会の設立について（研究部担当理事の提案）

- ①研究分科会の中に研修分科会（仮称）を新設する。
- ②1年（4～5回実施）を単位とし、1～2年間は試行期間として実施する。
- ③NPOの協力を得て企画運営を行う。

◇2008年10月10日（金）第5回運営委員会

[研究分科会見直しについて（審議）]

研究部担当理事校より研修分科会企画案が、更新担当理事校より研究分科会見直し案が提示され、資料に基づいて説明および意見交換を行い、結論に至った。

1. 結論

- ①研究部担当理事より提案された研修分科会企画案を採用する。
- ②活動中・休会中の各研究分科会は、次期募集時・参加希望者確定時点で少数の場合は活動が可能かどうかを分科会代表者と参加希望者の意見を聞き、意向を重んじるよう対応する。但し、希望者少人数の場合は期間中にさらに会員が減少することもありうるので、心情的に分科会を成立させることはしない。

2. 研修分科会企画案の概要

- ①NPOの全面的な支援により実施する。
- ②テーマは、以下のような内容をカバーするものにする。
  - ・情報化社会の急激な進展に大学図書館職員が即応していけるような基礎知識を習得でき、且つ、研究分科会の参加に興味を持てるような実力を得られるようにする。

3. 研修分科会の実施要領概要

- ①2009年度は、トライアルで研究分科会の中に研修分科会を新設する。
- ②既存の分科会は2年1期であるが、研修分科会は1年を1期とし、実施場所を1年間特定する。

4. 今期の具体的な起案は研究部担当理事校とNPO法人大学支援機構の連携で行う。

5. 新規立上げに関連する書類の作成等一連の事務取扱いは更新担当理事校が担当する。

6. 2期2年間（2009年度2010年度）の実施に要する予算は、東地区部会長校と協議して確定しておく。（研究部担当理事校担当）

7. 2011年度以降の実施は、トライアル期間（2期2年間）の実績を反映させる。

\*次期研究部担当理事校（東京理科大学図書館）が、次々期研究部担当理事校（東京農業大学）へ引き継ぐ

8. 2011年度以降の研修分科会企画・運営は、NPOと研究部の連携で行う。

9. 事務取扱いはNPO・研究部担当理事校・更新担当理事校の話し合いで行う。

10. 研修会の開催中は、実態を把握するために研究部が参観する。

◇2008年11月14日（金）第6回運営委員会

①研修分科会の新規立ち上げスケジュール及び会員募集用書類一式を提示。〈承認〉  
（更新担当理事校）

②第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議で、研修分科会新規開設の経緯、企画案、スケジュールについて説明。〈合意〉

◇2008年12月5日（金）

加盟大学図書館長宛に新設研修分科会立上げと募集の案内についての書類一式を発送。

◇2008年12月11日（木）第7回運営委員会

定員以上の応募があった場合の選考は抽選とし、補欠を2～3名選出しておくことを確認。受入れは28名（確定）。

◇2009年1月30日（金）

研修分科会参加応募締切。参加希望者30名（定員28名）。

更新担当理事校案を研究部担当理事校を経て運営委員各位にメールで意見聴取し、2名参加希望の2機関は各1名を補欠とし対象者は当該機関に一任することにした。

◇2009年3月12日（木）第8回運営委員会（新旧委員拡大会議）

研修分科会参加者の決定

3月18日付で加盟大学図書館長宛に決定通知発送（更新担当理事校）。

◇2009年3月26日（木）新設研修分科会打合せ会

出席者：NPO法人大学図書館支援機構（高野・森）、研究部担当理事校・東京経済大学（丸本、久世）、[新]東京理科大学（宮川・泉・丹治）、研究分科会担当理事校・共立女子大学（佐々木）、[新]跡見女子学園大学（大澤・菊地）

III. 今後の研究分科会と研修分科会設立について

①今後の研究分科会

現在11の研究分科会が活動中であるが、構成要員が少なく活動が困難なケースもある。来期は初期参加希望をありのままに捉え、執拗に分科会の存続を図らず、付加価値のある分科会に成長させる方向に整備を進めることが課題となる。

②研修分科会の新設と研究分科会の共生

東地区部会研究部は、1955年10月に研究分科会を、1972年に研修分科会を設置し、以来大学図書館職員の能力の向上と標準的実力の維持に貢献してきた。

近年、職員の雇用形態を含む大学図書館の急激な環境変化は、利用者の要望に応える職員の力にばらつきをもたらしている。研究分科会と研修分科会への参加を加盟各館が有効に利用し、早急に大学図書館職員の実力を標準化し、研究分科会活動によって、電子情報を含めた図書館資料の有用性を見出すことを期待している。

## 《研究講演会》

### 私立大学図書館協会 2008 年度東地区部会研究講演会

日 時：2008 年 6 月 13 日（金） 13：45～16：45

会 場：玉川大学 玉川学園講堂

参加者：239 名

- 受 付 13：00～
1. 開会の辞 13：45～  
司会者（研究部運営委員）駒澤大学図書館 川越 智之
2. 挨拶  
研究部担当理事校 東京経済大学図書館 館長 吉井 博明
3. テーマ
- (1) 講演 「平成 19 年度特色 GP 『教育の場』としての図書館の積極的活用」  
について 14：00～15：00  
明治大学図書館 副館長 広沢 絵里子  
質疑応答 15：00～15：15
- <休 憩> 15：15～15：30
- (2) 講演 「学生支援 GP マイライフ・マイライブラリープロジェクトについて」  
15：30～16：30  
東京女子大学図書館 館長 小林 一章  
質疑応答 16：30～16：45
4. 閉 会

※講演のレジメは、「私立大学図書館協会会報」132号に掲載予定。

## 《研究会(交流会)》

### 2008 年度研究会(交流会)

日 程：2008 年 11 月 14 日 (金)  
会 場：東京経済大学 6 号館 7 階 大会議室  
参加者：41 大学 69 名

受 付 開 会		14 : 30～	
1. 開会の辞		15 : 00～	
司会者 (研究部運営委員) 東京理科大学図書館		泉 宏紀	
2. 挨拶		15 : 00～15 : 05	
研究部担当理事校 東京経済大学図書館 館長		吉井 博明	
3. (1)講 義			
・ 演 題：「行列のできる講座とチラシの作り方」		15 : 05～16 : 25	
・ 講 師：特定非営利活動法人 男女共同参画おおた 理事長		牟田 静香	
(2)研究分科会活動中間報告		16 : 30～17 : 30	
・ 11 研究分科会 各 5 分			
・ 報告者：研究分科会代表者			
①分類	②逐次刊行物	③パブリック・サービス	④図書館運営戦略
⑤レファレンス	⑥理工学	⑦西洋古版本	⑧企画広報
⑨和漢古典籍	⑩情報リテラシー教育	⑪ L-ラーニング 学習支援システム	
閉 会		17 : 30	
意見交換会		17 : 40～19 : 00	
会 場：東京経済大学 6 号館 7 階 ラウンジ			

※講義のレジメは、「私立大学図書館協会会報」132号に掲載予定。

## 《研修会》

### 2008 年度研修会

日 程： 2008 年 10 月 23 日（木）～10 月 24 日（金）  
会 場： 明治大学中央図書館  
駿河台キャンパス リバティタワー  
参加者： 98 大学 114 名  
テーマ： 図書館評価 ―図書館サービスを自己満足で終わらせないために―

#### 《開催趣旨》

近年、大学の教育効果や社会貢献への成果に対する説明責任が強く求められている中で、図書館も教育研究活動を支える学術情報基盤の要として、それぞれの大学のミッションに沿って、ユーザーニーズに応じた新たな施策の実施やサービスを提供することが期待されています。その実現に向けては、大学図書館の諸活動を正当に評価する手法により得られた結果を反映することが不可欠です。

今回の研修会では、「図書館評価」の背景・動向・現状とともに、利用者の視点を重視した図書館サービス評価などの具体的な評価方法を紹介することで、それら評価方法に関する正しい知識を備えることを目的とします。さらには、先進的な事例報告により、利用者からの評価を高めるための施策やサービスの提供についても考察する機会を持ちたいと考えます。

今後の図書館サービスを検討する一助となれば幸いです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

#### 《プログラム》

##### 第1日（10月23日）

- |                           |                      |             |
|---------------------------|----------------------|-------------|
| * 受付                      |                      | 9:45～10:15  |
| * 挨拶・オリエンテーション            |                      | 10:15～10:30 |
| 会場担当校挨拶                   | 明治大学図書館長             | 吉田 正彦       |
| 研修委員長挨拶                   | 早稲田大学図書館調査役          | 今村 昭一       |
| * 基調講演：「図書館評価のツボと落とし穴」    |                      | 10:30～11:30 |
|                           | 慶應義塾大学文学部 教授         | 糸賀 雅児       |
| * 講演：「国立大学図書館と評価の仕組み」     |                      | 13:00～14:30 |
|                           | 名古屋大学附属図書館 情報管理課課長補佐 | 蒲生 英博       |
| * 講演：「利用者の視点からの図書館サービス評価」 |                      | 15:00～16:30 |
|                           | 慶應義塾大学文学部 講師         | 須賀 千絵       |
| * 懇親会：会場：明治大学駿河台キャンパス     |                      | 16:40～18:00 |
|                           | リバティタワー23階 サロン紫紺     |             |

##### 第2日（10月24日）

- |                                  |                    |             |
|----------------------------------|--------------------|-------------|
| * 事例報告：「学生の情報リテラシーに与える図書館利用教育の効果 |                    | 10:00～11:00 |
|                                  | ―国際基督教大学における評価の試み― |             |
|                                  | 国際基督教大学図書館 館長代行    | 畠山 珠美       |

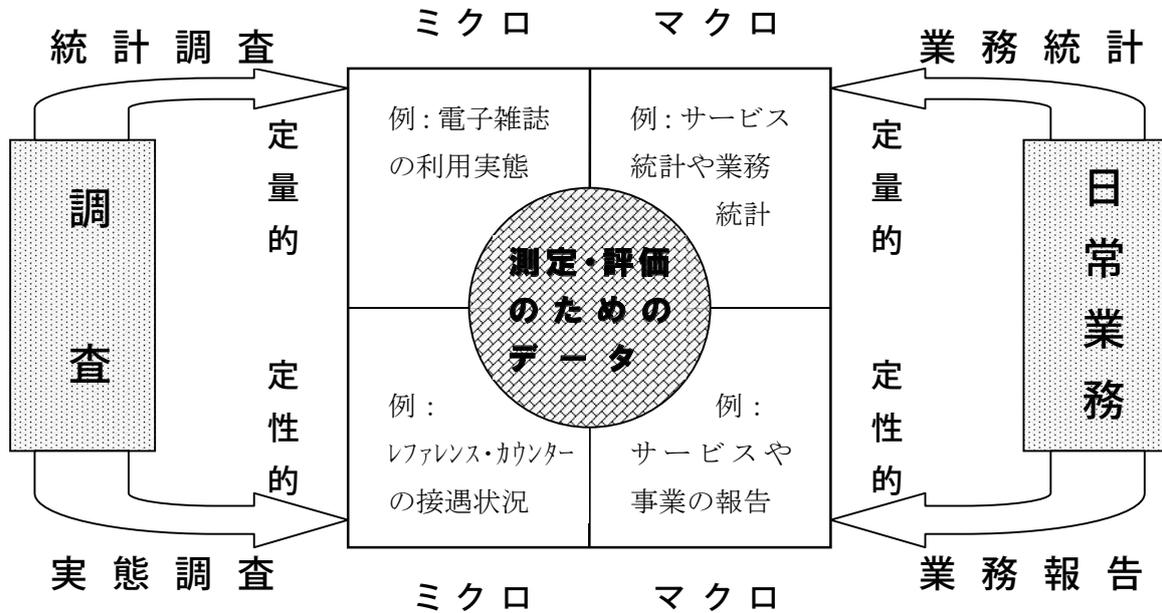
明治大学図書館評価チーム

- \* 事例報告：「指定管理者による千代田図書館運営の評価と指標」  
千代田図書館 サービスプロデューサー 13：30～14：30  
梶川 悦子
- \* 講演：「電子図書館評価を意識したシステム設計」  
筑波大学 図書館情報メディア研究科 准教授 15：00～16：00  
宇陀 則彦
- \* まとめとアンケート 16：00～16：30
- \* 見学 明治大学図書館・博物館（自由見学）

# 図書館評価のツボと落とし穴

慶應義塾大学文学部 糸賀 雅児

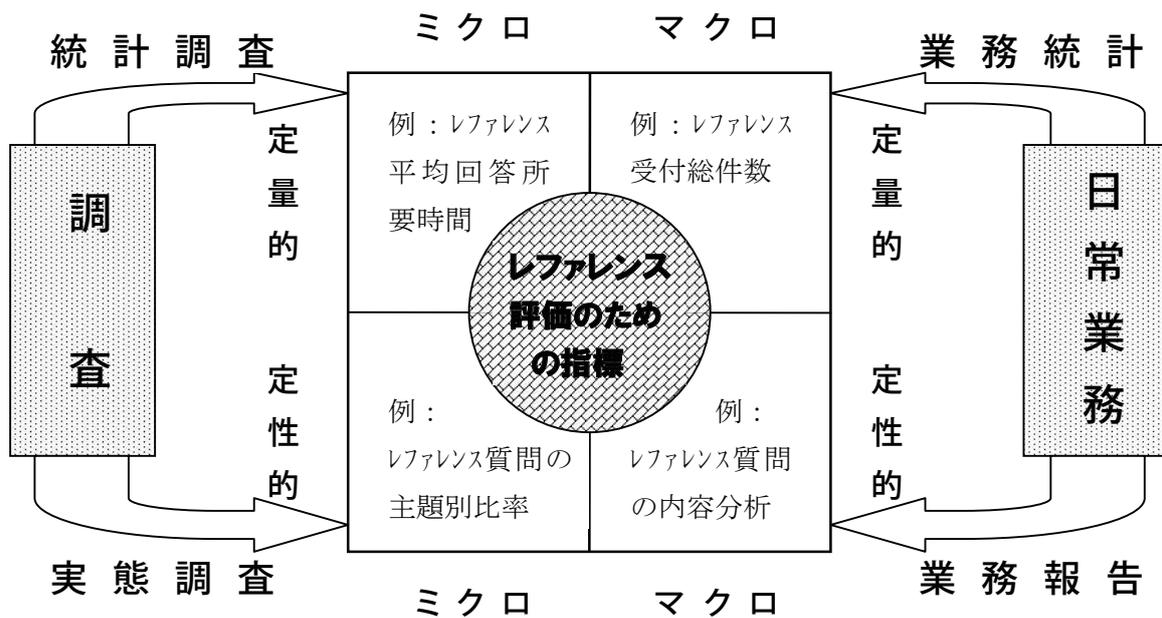
## 1 図書館における評価と調査の関係モデル



第1図

出典：糸賀 雅児“サービスの測定と評価” 図書館情報学ハンドブック 第2版. 丸善, 1999, p. 693.

### ◎[具体例]レファレンス・サービスにおける評価と調査の関係



第2図

## 2 図書館サービスの質をどう考えるか？

- 図書館(情報)サービスの質の評価と接客(接遇)業における顧客満足は、本来異質のもの

例：料理の「質」は食材と調理法によるものであって、レストランの顧客満足とは異なる。

- サービスの「質」は、サービスの「構成比」でも表せるはず

例：同じ100件のレファレンス質問受付でも、クイック・レファレンスの比率によって「質」は異なる。

同じ100人対象の情報リテラシー教育でも、講義と演習の組立てや受講者によって「質」は異なる。

## 3 図書館評価のツボ

- 図書館サービスの「改善」「向上」に結びつける経営評価でなければ無意味。

例：コストが同じときに選択肢のいずれが「改善」「向上」か（あるいは「好ましいか」＝価値判断）を定量的ないし定性的に調査する。（モノで測る、コトを数える、ヒトに訊く）

- 大学図書館の使命と評価

- ・今日の大学図書館の具体的な目標の収斂先は、「閲覧」（図書館資料を読むこと）の総量（時間）を増大させることにある。さらに言えば、コストを考慮して「閲覧」を最適化させることにある。

- ・閲覧時間の総量 = 館内閲覧 + 館外閲覧（貸出し） + 遠隔閲覧

## 4 図書館評価の落とし穴

- 利用者調査（来館者満足度調査を含む）は経営評価のためのツールとして問題が多い。

- ・来館者調査の回答者は常連が多く、未利用者はほとんど含まれない。（付表を参照）

（1983年の岩槻市調査では、月に1回以上の利用を常連としたが、住民調査で27%、来館者調査で67%）

- ・全数調査（悉皆調査）やっても回収率が低く、さほど効果は上がらない。

- 閲覧量が測定されてこなかったことも大きな問題。

- ・「冊数」や「人数」では重複があって信頼性に欠けるが、「時間」であれば重複はない。

- 図書館の使命や目標（価値）をどこに置くのか？ 下の2つのいずれかを選ぶのは誰なのか？

- ・（閲覧時間／コスト）の最適化

- ・（利用者層の広がり／コスト）の最適化

- 利用者もさることながら、ステークホルダーに訊くべきではないのか？

〔付表〕 利用頻度にもとづく学生構成比と調査回答構成比の差異(シミュレーション)

図書館の 利用頻度	開館日1日に 利用する確率	6日間の調査期間に少なくとも 1回利用する確率	(仮定A)学生1200人 の構成(比率)	6日間の調査期間に回答する 学生数(合計561人)	(A')調査期間に回答 する学生の構成比	(仮定B)学生1200人 の構成(比率)	(B')調査期間に回答 する学生の構成(比)
毎日利用する	1	1	300人(25%)	300人×1 = 300人	53%	120人(10%)	120人(34%)
週に1回利用する	1/6	$1 - (5/6)^6 = 0.67$	300人(25%)	300人×0.67 = 201人	36%	240人(20%)	161人(45%)
月に1回利用する	1/30	$1 - (29/30)^6 = 0.18$	300人(25%)	300人×0.18 = 54人	10%	360人(30%)	65人(18%)
年に1回利用する	1/300	$1 - (299/300)^6 = 0.02$	300人(25%)	300人×0.02 = 6人	1%	480人(40%)	10人(3%)

〔解説〕 このシミュレーションは、1週間(6日間の調査を実施した場合、  
 学生の利用頻度別に学生がその調査に出会う確率を求め、それをもとに学生全体の構成比率と回答学生の構成比率がいかに異なるかを示したものです。  
 これにより、(仮定A)で週に1回以上利用する学生は実際には半分(50%)しかいないのに、調査では9割近く(89%)がそう回答することになります。  
 より現実的な(仮定B)では、週1回以上利用する学生を30%としていますが、調査では8割近くになります。

私立大学図書館協会東地区部会研究部  
2008年度研修会  
日時:2008年10月23日(木)  
会場:明治大学中央図書館

## 国立大学図書館と 評価の仕組み



名古屋大学附属図書館  
蒲生 英博

## レシピ 図書館評価をおいしく料理するために

- |                |                                     |
|----------------|-------------------------------------|
| 1. 材料          | 評価のためのヒント<br>— 名古屋大学附属図書館のご紹介を兼ねて — |
| 2. 下ごしらえ       | 国立大学法人化前の図書館評価                      |
| 3. 調理          | 国立大学法人化後の図書館評価                      |
| 4. 味見          | 「国立大学法人評価」と「大学機関別認証評価」による評価結果       |
| 5. 胃腸薬あるいはデザート | 評価疲れと消化不良の改善, さまざまな評価               |
| 6. 新たなレシピ      | 今後の大学図書館の評価                         |



### 1. 材料 産地

#### 中部地方

新潟県, 富山県, 石川県,  
福井県, 山梨県, 長野県,  
岐阜県, 静岡県, 愛知県



#### 東海地方

静岡県, 愛知県, 三重県,  
岐阜県



#### 国立大学図書館協会

東海・北陸地区  
富山県, 石川県, 福井県, 岐阜県,  
静岡県, 愛知県, 三重県

中部  
中京  
中部国際空港セントレア (Centrair)  
「中部地方」central+「空港」airport  
JRセントラルタワーズ  
東西文化の要衝・交流地



### 1. 材料 産地

#### 東山キャンパス



- 東山キャンパス 中央図書館と 33図書室(学部, 学科, センター, 研究所)
- 鶴舞キャンパス 医学部分館
- 大幸キャンパス 医学部分館保健学図書室



### 1. 材料 産地

山手通(名古屋市地下鉄「名古屋大学」駅)の東側からみた中央図書館



### 1. 材料 生産者の情報

#### 名古屋大学の規模の概略

平成20年5月1日現在		
役員・職員数	役員	10名
	職員数	3,245名
学生数	学部学生	9,701名
	大学院学生	5,981名
財政	収入	89,398百万円
	支出	86,701百万円
土地面積		3,247,605m <sup>2</sup>
建物面積		730,583m <sup>2</sup>
蔵書数		2,930,022冊

9学部  
13研究科+法科大学院

「数字で見る名古屋大学」から <http://www.nagoya-u.ac.jp/out/toukei/>



## 1. 材料 生産者の情報

雑誌購入受入数 (純タイトル数) 平成20年4月1日現在		
外国雑誌	国内雑誌	合計
1,976種	1,376種	3,352種
電子ジャーナル提供数 平成20年4月1日現在		
外国雑誌	国内雑誌	合計
15,024種	458種	15,482種
電子ジャーナル利用件数 (全文表示件数) 平成19年度		
合計		
1,303,806件		
利用状況 (中央図書館) 平成19年度		
閲覧業務	参考調査業務	相互利用業務
入館者数 (人)	貸出者数 (人)	貸出冊数 (冊)
708,922	67,091	139,230
	取扱件数 (件)	取扱件数 (件)
	3,498	109,851

「名古屋大学プロフィール2008資料編」から  
<http://www.nagoya-u.ac.jp/info/pdf/MeidaiProfile2008.pdf>



## 1. 材料 生産者の情報

「附属図書館統計データ集」から <http://www.nagoya-u.ac.jp/out/toukei/>

根拠資料

## 1. 材料 選び方

材料	材料選びのポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミッションとビジョン</li> <li>・ 教育</li> <li>・ 研究</li> <li>・ 社会との連携</li> <li>・ 国際交流</li> <li>・ 学術情報基盤</li> <li>・ 業務運営</li> <li>・ 財務内容</li> <li>・ 自己点検評価, 情報公開</li> <li>・ 施設整備, 安全管理 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学のミッションとビジョン (中期目標・中期計画)に沿っているか</li> <li>・ 大学, 大学図書館の「強み」であるか</li> <li>・ 大学, 地域社会, 国内, 海外の要求に応えているか</li> <li>・ 新鮮であるか</li> <li>・ 独自性を持つか</li> <li>・ 波及効果があるか など</li> </ul>

「附属図書館年度計画」から  
[http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/nendo\\_keikaku20.pdf](http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/nendo_keikaku20.pdf)



## 1. 材料 教育

学内教育機関との連携	教育支援体制・設備の充実
	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラバス(授業要覧)</li> <li>推薦図書</li> <li>蔵書整備アドバイザー</li> <li>情報リテラシー</li> <li>パスファインダー</li> <li>電子ブック</li> <li>ラーニング・commons</li> </ul>

「附属図書館年度計画」から  
[http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/nendo\\_keikaku20.pdf](http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/nendo_keikaku20.pdf)

## 1. 材料 研究

研究開発室の研究目標	研究支援体制の充実	研究成果の発信
<p>地域の特色ある古文書, 資料を受け入れ, 整理・保存・公開を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究用資料の整備</li> <li>NIIのCSI事業</li> <li>電子ジャーナル</li> <li>特色あるコレクション</li> <li>貴重図書の整理</li> <li>雑誌の集中管理</li> </ul>	<p>7,600件の論文</p>
<p>メタデータ 高精細画像</p>	<p>専任2名, 兼任10名, 研究協力者 6名</p>	<p>5万件的学内研究情報</p>

## 2. 下ごしらえ 国立大学法人化 (2003年10月施行)前

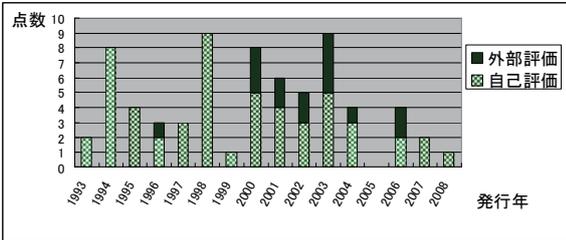
1991年7月 「大学設置基準」の大綱化  
 「自ら点検及び評価を行うことに努めなければならない。」

1998年10月 大学審議会 「21世紀の大学像と今後の改革方針について 一競争的環境の中で個性が輝く大学— (答申)」  
 「自己点検・評価の充実を図るとともに, 第三者評価システムの導入などを通じて多面的な評価を行い, 大学の個性を伸ばし, 教育研究の内容・方法の改善につなげるシステムを確立する必要がある。」

1999年9月 大学審議会 「大学設置基準等の改正について(答申)」  
 「大学は, その教育研究水準の向上を図り, その目的及び社会的使命を達成するため, 教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い, その結果を公表するものとする。」

## 2. 下ごしらえ 国立大学法人化(2003年10月施行)前

法律の施行日は 2003年10月1日  
国立大学法人の設立は 2004年4月1日



大学図書館の点検評価  
NACSIS Webcatによる報告書の発行点数(図書館単独の報告書のみ)  
2008年9月調査

## 2. 下ごしらえ 国立大学法人化(2003年10月施行)前

### 名古屋大学における図書館評価報告書の発行

発行年	タイトル	主な内容
1993	現状と課題：自己評価報告書	先に発行された全学の自己評価報告書を詳細に補足
1996	利用者の要望にどう応えるのか	1993年の報告書からの改善点 利用者(研究者、学生)から見た図書館評価を実施
2001	自己点検評価報告書	外部評価の基礎資料としても活用 ホームページ上で利用評価アンケートを実施
2002	外部評価報告書	国立大学図書館長、私立大学教授及び職員、公共図書館長の4名
2003	国立4大学附属図書館評価指標データ集	東北大学附属図書館が編集発行 北海道大学、東北大学、名古屋大学、大阪大学から提供されたデータによる比較評価

## 2. 下ごしらえ 国立大学法人化(2003年10月施行)前

### 大学図書館における自己点検評価の標準化の取り組み

- 1993年3月  
**国立大学図書館協議会**  
「国立大学における自己点検・評価について:よりよき実施に向けての提言」
  - 1999年10月  
**私立大学図書館協会**  
「私立大学図書館自己点検・評価手法ガイドライン」
  - 2002年3月  
**国立大学図書館協議会**  
「大学図書館における評価指標報告書 (Version 0)」
- 1998年  
- ISO 11620 : Information and documentation  
- Library performance indicators.
- 2002年  
- JIS X 0812: 図書館パフォーマンス指標
- 2003年  
- ISO 2789 : 2003 : Information and documentation – International library statistics.  
- ISO / TR 20983 : Information and documentation – Performance indicators for electronic library services.

## 2. 下ごしらえ 国立大学法人化(2003年10月施行)前

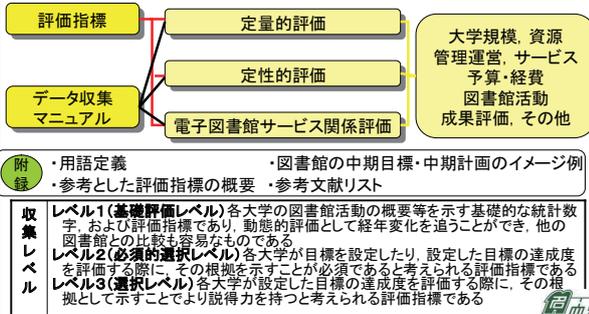
### 国立大学図書館協議会 法人格取得問題に関する附属図書館懇談会 図書館評価指標WG 「大学図書館における評価指標報告書 (Version 0)」

- 明確な目的**  
国立大学の法人化にあたり、附属図書館の中期目標・中期計画の戦略的な策定や達成度の評価を支援するため、図書館の有用性を評価できるような図書館評価指標を作成する。
- 方針**
  1. 国内で実施されている図書館の統計項目の調査
  2. 海外における図書館評価の指標や手法の調査
  3. 数量的な評価指標のほか、質的評価の確立についても検討
  4. 電子図書館的機能やネットワーク情報資源に対するサービスを含めた新たな評価指標についても検討
  5. 国立大学附属図書館としての標準的な評価指標を設定
  6. 評価指標にもとづく具体的な中期計画例を作成

<http://www.soc.nii.ac.jp/anul/j/publications/reports/73.pdf>

## 2. 下ごしらえ 国立大学法人化(2003年10月施行)前

### 「大学図書館における評価指標報告書 (Version 0)」 構成



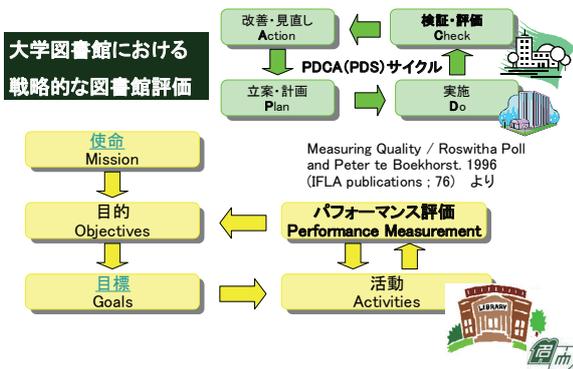
## 2. 下ごしらえ 国立大学法人化(2003年10月施行)前

### 大学図書館における外部評価

年	外部評価委員	人数	主な内容
千葉大学	1996 国立大学図書館長、教授(3)、 図書館職員(2) 私立大学図書館長、図書館職員 公共図書館長	9	総合評価及び改革への提言 各評価項目ごとの評価 評価グラフ
京都大学	2000 国立大学図書館長、教授 公立大学図書館長 私立大学図書館長、図書館職員 公共図書館長	6	評価報告書 自己点検評価報告書と同時発行(合冊)
名古屋大学	2002 国立大学図書館長 私立大学教授、職員 公共図書館長	4	評価・提言

- 外部評価委員として、市民が入っているか

## 2. 下ごしらえ 国立大学法人化(2003年10月施行)前



## 3. 調理 国立大学法人化 後

### 国立大学法人化と評価

2003年7月 「国立大学法人法」成立  
2004年4月 国立大学法人に移行

- 「第三者評価」の導入による事後チェック方式に移行
- 大学の教育研究実績を第三者機関により評価・チェック
  - 第三者評価の結果を大学の資源配分に確実に反映
  - 評価結果, 財務内容, 教育研究等の情報を広く公表

## 3. 調理 国立大学法人評価と大学機関別認証評価

国立大学法人が取り組まなければならない2つの評価

### 国立大学法人評価

国立大学法人の「中期目標・中期計画」の達成状況に対する評価制度。

運営交付金(国の税金)を使う根拠を社会に示すために行われる。

評価結果を次期以降の中期目標・中期計画の内容や中期目標期間における運営費交付金等の算定に反映

### 大学機関別認証評価

(国公立問わず)すべての大学が7年(専門職大学院では5年)に1度, 文部科学大臣が認定した評価機関において評価を受ける制度

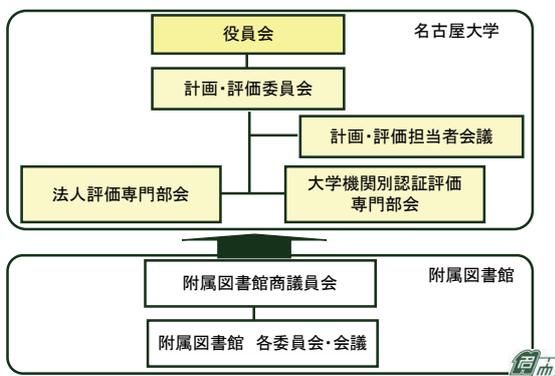
すべての学部・研究科に共通する教育の質を保证するために行われる。

大学の教育研究活動等の質を保证  
評価結果を教育研究活動等の改善に役立てる

## 3. 調理 国立大学法人評価と大学機関別認証評価

評価の種類	根拠となる法令	評価の期間	評価機関	
国立大学法人評価	国立大学法人法	第1期(2004年度～2009年度) 毎年 (2008年度は4年分)	文部科学省国立大学法人評価委員会 (独)大学評価・学位授与機構	
認証評価	大学	学校教育法	7年以内に一度 (名大は2007年度)	(独)大学評価・学位授与機構
	法科大学院	学校教育法	5年以内に一度 (名大は2008年度)	(独)大学評価・学位授与機構

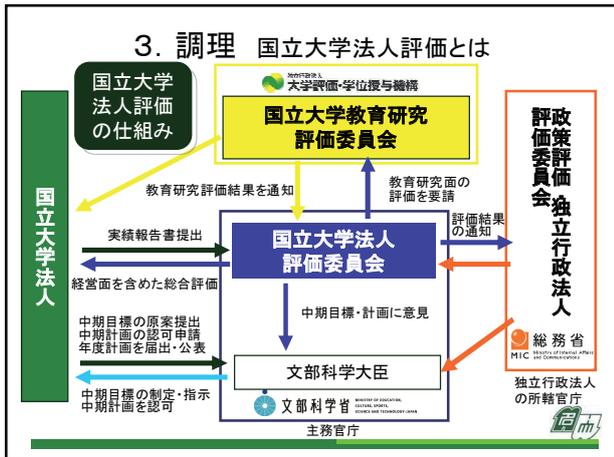
## 3. 調理 名古屋大学の体制



## 3. 調理 国立大学法人評価

名古屋大学 第1期中期目標・中期計画

項目	評価者	自己評価書の種類	
I. 教育研究等の質の向上	(1)教育	(独)大学評価・学位授与機構 ただし, 附属病院及び附属学校を除く	・中期目標の達成状況報告書 ・学部・研究科等の現況調査表(部局ごと, 教育と研究) ・優れた研究業績リスト(部局・重点分野ごと)
	(2)研究		
	(3)その他		
II. 業務運営・財務内容等	(1)業務運営の改善及び効率化	文部科学省国立大学法人評価委員会 ただし, 附属病院及び附属学校を含む	・2007事業年度に係る業務の実績及び(中期目標期間(2004～2007事業年度)に係る業務の実績)に関する報告書
	(2)財務内容の改善		
	(3)自己点検・評価及び情報提供		
	(4)その他の業務運営		



### 3. 調理 名古屋大学の認証評価

- 名古屋大学では、2006年度に申請、2007年度に実施
- 名古屋大学法科大学院の認証評価は、2006年度に予備評価、2008年度に本評価

文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

JUA 大学基準協会

財団法人日本高等教育評価機構

JACIS 大学基準協会

Japan Association for College Accreditation

他

専門職大学院のうち法科大学院の評価を行う認証評価機関

財団法人日本法務研究財団

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

他

### 3. 調理 大学機関別認証評価

基準1 大学の目的  
基準2 教育研究組織(実施体制)  
基準3 教員及び教育支援者  
基準4 学生の受入  
**基準5 教育内容及び方法**  
**観点 自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。**  
基準6 教育の成果  
基準7 学生支援等  
**観点 自主的学習環境(例えば、自習室、グループ討論室、情報機器室等が考えられる。)が十分に整備され、効果的に利用されているか。**  
**基準8 施設・設備**  
**観点 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。**  
基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム  
基準10 財務  
基準11 管理運営  
選択的評価事項 「研究活動の状況」、「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」

大学機関別認証評価実施大綱(独立行政法人大学評価・学位授与機構)より  
[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/daigaku/1178444.1137.html](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku/1178444.1137.html)

### 3. 調理 名古屋大学の認証評価

大学機関別認証評価における評価項目 (単位)

2007(平成19)年11月1日現在(2007年度)の認証評価結果が示されています。評価結果は2008(平成20)年3月31日まで公表されます。

評価結果から、当該調査に回答を通じて、「学生の自主学習と学習もしている」、「設備、学費を含め、他校の水準に劣らな、むしろ、優れているところがある」、「卒業生は「名古屋大学を卒業して良かった」と感じている」、「施設、設備の確保が良好である。」が述べられたことを行います。

評価項目	評価	結果	注
1-1 大学の目的	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-2 教育研究組織(実施体制)	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-3 教員及び教育支援者	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-4 学生の受入	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-5 教育内容及び方法	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-6 教育の成果	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-7 学生支援等	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-8 施設・設備	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-10 財務	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-11 管理運営	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-12 選択的評価事項	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-13 総合評価	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-14 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-15 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-16 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-17 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-18 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-19 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-20 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-21 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-22 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-23 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-24 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-25 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-26 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-27 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-28 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-29 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-30 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-31 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-32 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-33 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-34 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-35 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-36 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-37 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-38 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-39 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-40 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-41 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-42 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-43 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-44 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-45 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-46 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-47 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-48 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-49 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-50 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-51 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-52 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-53 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-54 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-55 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-56 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-57 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-58 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-59 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-60 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-61 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-62 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-63 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-64 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-65 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-66 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-67 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-68 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-69 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-70 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-71 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-72 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-73 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-74 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-75 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-76 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-77 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-78 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-79 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-80 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-81 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-82 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-83 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-84 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-85 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-86 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-87 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-88 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-89 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-90 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-91 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-92 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-93 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-94 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-95 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-96 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-97 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-98 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-99 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】
1-100 附属図書館	40点	40点	【評価項目に該当しない】

### 3. 調理 名古屋大学の認証評価

2007年6月  
[http://www.niad.ac.jp/sub\\_hyouka/nin\\_syou/hyoukaku200803/daigaku/jiko\\_nagoya\\_d200803.pdf](http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/nin_syou/hyoukaku200803/daigaku/jiko_nagoya_d200803.pdf)

2008年1月  
[http://www.niad.ac.jp/sub\\_hyouka/ninsyou/hyoukaku200803/daigaku/nagoya\\_d200803.pdf](http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukaku200803/daigaku/nagoya_d200803.pdf)

### 4. 味見 国立大学法人評価

平成19年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)  
(平成20年9月10日 国立大学法人評価委員会)

国立大学法人評価委員会令(平成15年政令第441号)第9条の規定に基づき、各国立大学長宛に、意見の照会がされた。

#### Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

「名古屋大学学術機関リポジトリ」の学術コンテンツを6,000件以上登録・公開し、研究成果の発信を進めている。

業務の実績に関する評価結果(原案)	数
大学の 実績報告書	8
附属図書館の 実績報告書	83

実績報告書は、大学全体で1つの報告書となるため、図書館に関連した項目は、あまり多くは記述されない。

## 4. 味見 大学機関別認証評価

**大学機関別認証評価結果の公表**

2008年3月27日、(独)大学評価・学位授与機構の実施した大学機関別認証評価において、名古屋大学は、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。

◎大学機関別認証評価とは  
学校教育法第109条第2項及び学校教育法施行令第65条の規定において、大学（国立・公立）の設置形態を問わず、短期大学を含む）および高等専門学校は、その教育研究等の総合的な状況について、自ら点検および評価を行い、その結果を公表し、7年度ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）による評価（認証評価）を受けなければならないこととされています。

名古屋大学における機関別認証評価  
機関別認証評価制度のもとでは、複数の認証評価機関から評価を受ける機関を選択し、その機関の定める基準に基づいて自己評価を行います。名古屋大学は、(独)大学評価・学位授与機構を認証評価機関として選択し、同機関の定める日の基準に基づいて、大学の状況を分析しました。さらに、本学の「優れた点」と「改善を要する点」についても分析し、報告しました。

大学評価・学位授与機構の定める大学評価基準  
 基準1 大学の目的  
 基準2 教育研究設備（実施体制）  
 基準3 教員および教育支援者  
 基準4 学生の学入  
 基準5 教育内容及び方法  
 基準6 教育の成果  
 基準7 学生支援等  
 基準8 国際・国際  
 基準9 財務  
 基準10 管理運営

名古屋大学評価企画室ニュースレター No. 5より  
<http://www.eda.provost.nagoya-u.ac.jp/?Newsletter>



## 4. 味見 大学機関別認証評価

**機関別認証評価において指摘された名古屋大学の「優れた点」** ならびに「改善を要する点」

認証評価結果において、名古屋大学は、336名がらを指摘されました。

基準2 教育研究経緯（実施体制）  
 【優れた点】独立研究者として、国際最先端研究、多学際科学研究、国際共同研究、産学連携研究、産学連携研究を幅広く推進し、新たな産学連携の教育研究のための分野の連携・融合を進めてきた。  
 【改善を要する点】「名古屋大学後期課程の一部の研究者においては、入学定員充率が低い」と指摘されました。

基準7 学生支援等  
 【優れた点】大学院上後期課程学生を対象とした産学連携研究学費制度により、産学連携への進学を促進している。  
 【改善を要する点】「教育の質の向上及び改善のためのシステム」

基準3 教員および教育支援者  
 【優れた点】【名古屋大学後期課程の一部の研究者においては、入学定員充率が低い】と指摘されています。男女科別専攻を設け、女性教員比率向上のための積極的な取組を継続的に行っているが、一層の努力が期待される。  
 【改善を要する点】「大学院教育における授業評価等に関しては、大学院教育にふさわしい評価の項目や実施方法に人し、さらなる検討が必要である。」

基準4 学生の学入  
 【改善を要する点】「大学院上後期課程の一部の研究者においては、入学定員充率が低い」と指摘されました。

基準5 教育内容及び方法  
 【優れた点】「教育活動等の改革に対する積極的な取組が、文部科学省の各種大学教育改善プログラムにおいて評価に繋がった。」

基準11 管理運営  
 【優れた点】自己点検として共通事務の「業務効率化」を行い、その効果を第一の事務を機動的に、各部署において「業務改善プロジェクト」を実施した。

名古屋大学評価企画室ニュースレター No. 5より  
<http://www.eda.provost.nagoya-u.ac.jp/?Newsletter>



## 5. 胃腸薬あるいはデザート

平成17年度名古屋大学附属図書館外部評価報告書  
 平成18年3月

外部評価項目

- 1 目標・計画
- 2 機構・組織
- 3 経営管理・予算
- 4 施設・設備
- 5 資料・サービス
- 6 社会貢献・連携
- 7 自己点検評価

外部評価委員会委員

- 私立大学常務理事 委員長  
 国立大学理事(附属図書館長)  
 私立大学教授(図書館情報学)  
 名古屋市立図書館長  
 一般市民 2名



ヒアリング



図書館長の説明



中央図書館実地視察

平成17年度名古屋大学附属図書館外部評価報告書  
 自己点検評価報告書(平成12年度~16年度) 2006年3月  
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/gaibu18.pdf>



## 5. 胃腸薬あるいはデザート

自己点検評価報告書(平成12年度~16年度)  
 平成17年10月

自己評価実施委員会

- 図書館長(委員長)  
 図書館医学部分館長  
 図書館商議員 6名  
 図書館事務部長, 課長 4名

自己点検評価WG

- 中央図書館 3名  
 図書館医学部分館掛長 1名  
 学部の図書館掛長, 図書館員 4名

- ・自己評価実施委員が「自己評価票」に記入
- ・7つの評価項目について評価点及びコメントを記入

平成17年度名古屋大学附属図書館外部評価報告書  
 自己点検評価報告書(平成12年度~16年度) 2006年3月  
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/gaibu18.pdf>



## 5. 胃腸薬あるいはデザート

自己点検評価報告書(平成12年度~16年度)  
 平成17年10月

1 基礎データ・定量的評価指標

1.1 概要

1.1(1) 利用対象者当たりの蔵書数

1.1(2) 電子図書館サービス関係評価指標

1.1(3) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(4) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(5) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(6) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(7) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(8) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(9) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(10) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(11) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(12) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(13) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(14) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(15) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(16) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(17) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(18) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(19) 図書館の電子化の進捗状況

1.1(20) 図書館の電子化の進捗状況

「大学図書館における評価指標報告書(Version 0)」の利用  
 定量的評価指標と電子図書館サービス関係評価指標

評価項目	単位	目標値	実績値	備考
1.1(1) 利用対象者当たりの蔵書数	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(2) 電子図書館サービス関係評価指標	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(3) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(4) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(5) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(6) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(7) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(8) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(9) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(10) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(11) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(12) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(13) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(14) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(15) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(16) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(17) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(18) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(19) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	
1.1(20) 図書館の電子化の進捗状況	冊	1,500,000	1,580,072	

平成17年度名古屋大学附属図書館外部評価報告書  
 自己点検評価報告書(平成12年度~16年度) 2006年3月  
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/gaibu18.pdf>



## 5. 胃腸薬あるいはデザート

自己点検評価報告書(平成12年度~16年度)  
 平成17年10月

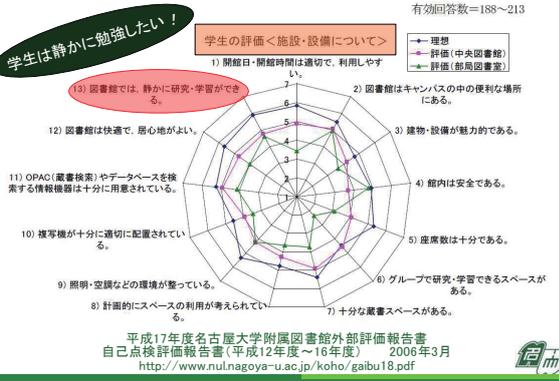
- ・LibQUAL+の手法を利用
- ・「施設・設備」、「資料・情報」、「職員・サービス」の3つのカテゴリー
- ・「期待の程度」と中央図書館/部局図書館の「評価の程度」
- ・41項目、7段階、800名から回答

カテゴリー	項目	期待の程度	評価の程度
施設・設備	1.1 建物	3.5	3.2
	1.2 空調	3.5	3.2
	1.3 照明	3.5	3.2
	1.4 騒音	3.5	3.2
	1.5 清潔さ	3.5	3.2
	1.6 安全	3.5	3.2
	1.7 静寂	3.5	3.2
	1.8 駐車	3.5	3.2
	1.9 設備	3.5	3.2
	1.10 設備	3.5	3.2
資料・情報	2.1 蔵書	3.5	3.2
	2.2 資料	3.5	3.2
	2.3 情報	3.5	3.2
	2.4 検索	3.5	3.2
	2.5 貸出	3.5	3.2
	2.6 返却	3.5	3.2
	2.7 予約	3.5	3.2
	2.8 予約	3.5	3.2
	2.9 予約	3.5	3.2
	2.10 予約	3.5	3.2
職員・サービス	3.1 職員	3.5	3.2
	3.2 サービス	3.5	3.2
	3.3 対応	3.5	3.2
	3.4 対応	3.5	3.2
	3.5 対応	3.5	3.2
	3.6 対応	3.5	3.2
	3.7 対応	3.5	3.2
	3.8 対応	3.5	3.2
	3.9 対応	3.5	3.2
	3.10 対応	3.5	3.2

平成17年度名古屋大学附属図書館外部評価報告書  
 自己点検評価報告書(平成12年度~16年度) 2006年3月  
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/gaibu18.pdf>



## 5. 胃腸薬あるいはデザート



## 5. 胃腸薬あるいはデザート

附属図書館長と利用者(留学生等を含む学部学生・大学院生)との懇談会  
2004年度から毎年実施

館長と話そう! 2008

11月17日(月) 13:00~14:00  
中央図書館の会議室

懇談会を目的に17日(月)13時~14時、中央図書館の会議室にて「館長と話そう! 2008」を開催いたします。懇談会では、館長が学生の声に耳を傾け、今後の図書館のありかたについて意見を伺います。懇談会には、中央図書館の職員も参加いたします。懇談会の模様は、図書館のホームページに掲載いたします。

懇談会に参加する場合は、懇談会参加申込書(別紙)を提出してください。参加費は無料です。懇談会の申し込みは、中央図書館のホームページに掲載いたします。

懇談会の申し込みは、中央図書館のホームページに掲載いたします。

懇談会の申し込みは、中央図書館のホームページに掲載いたします。

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/misc/ktalk.pdf>

## 5. 胃腸薬あるいはデザート

大学情報データベース (独立行政法人 大学評価・学位授与機構)

表: 大学情報データベースで収集している項目

組織・施設に関すること	学校用途、附属図書館等に関するデータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学の評価活動の基礎資料となるデータを収集</li> <li>対象は国立大学法人</li> <li>55種類の調査票</li> <li>名古屋大学は、必須項目「共通調査票」を入力</li> <li>個別の大学の匿名性に配慮し、集計データや分布表を各国立大学法人と、評価者へフィードバックされる。</li> <li>参加大学は、自大学以外のデータを閲覧することはできない。</li> <li>平均値と参加大学全体における自大学の位置を把握することが可能。</li> </ul>
教職員に関すること	本務教員の年齢別、取得学位別、専門分野別データ 教職員数、研究員数のデータ	
学生に関すること	入学状況(編入学等)に関するデータ 学生数(出身高校所在地別)のデータ	
教育活動に関すること	学位授与に関するデータ 学生数(休学者、退学者、転部転科者、留学者)に関するデータ	
学生支援に関すること	入学科・授業料免除に関するデータ 奨学金に関するデータ	
研究資金に関すること	科学研究費補助金等、競争的外部資金に関するデータ 共同研究・委託研究、寄附金に関するデータ	
国際交流に関すること	学生の海外派遣に関するデータ 協定校等交流状況に関するデータ	
社会貢献に関すること	公開講座、講演会・展示会等に関するデータ オープンキャンパスに関するデータ	
評価改善活動に関すること	自己点検・評価活動、第三者評価等に関するデータ	

## 6. 新たなレシピ 今後の大学図書館の評価

大学評価情報ポータル (大学評価・学位授与機構)

<http://portal.niad.ac.jp/index.html>

## 6. 新たなレシピ 今後の大学図書館の評価

LibQUAL Japan設立趣意書から

事業:  
LibQUAL+™の日本語化  
ホームページ他による広報活動  
図書館サービス評価に関連する勉強会、ワークショップ、講習会等の開催  
LibQUAL+™の事後サポート  
個別調査の実施に関する相談

2008年10月22日 LibQUAL Japan発足式  
2008年11月27日 図書館総合展フォーラム  
『大学のミッション・ビジョン策定に評価システムを活用する評価指標LibQUAL+™の報告』

ご清聴ありがとうございました。

## 1. 多角的な視点からの評価

## 2. 評価の対象

- 2.1 インプット, 活動, アウトプット, アウトカム
- 2.2 満足度, 有効度, 許容範囲(期待と認知の差)

## 3. 評価の方法

- 3.1 主要な方法
- 3.2 フォーカス・グループ・インタビューの事例(慶應義塾大学利用調査ワーキング・グループ)
- 3.3 質問紙の事例1(法政大学の学生生活実態調査における図書館への意見・要望)
- 3.4 質問紙の事例2(茨城大学附属図書館自己点検・評価報告書)
- 3.5 質問紙の事例3(戸田・永田による文教大学調査)
- 3.6 質問紙調査を実施する際の注意点

## 4. SERVQUAL評価

### 4.1 サービス品質の考え方

GAPモデル

許容範囲

開発の方法

5つの次元(dimension) ①信頼性(reliability), ②応答性(反応性)(responsiveness), ③  
確実性(assurance), ④共感性(empathy), ⑤具象性(tangibles)

22項目の質問

期待水準と認知水準

### 4.2 図書館へのSERVQUALの応用

#### 4.2.1 CookらによるLibQUAL+™

(大学)図書館における共通ツール

3つの次元 ①サービスの姿勢(affect of service), ②情報の管理(information control),  
③場としての図書館(library as a place)

22項目の質問

最低限のレベル, 望ましいレベル, 実際に認知したレベル

#### 4. 2. 2 Hersonらによる研究

個々の図書館が個別に質問を設計すべきという立場

サービス品質の構成要素 ①資源:情報の内容, ②組織:サービス環境と資源のデリバリー,  
③サービスを提供する職員

#### 4. 2. 3 日本における応用

佐藤・永田による研究, 慶應義塾大学調査

#### 4. 3 LibQUAL+™

##### 4. 3. 1 質問紙の構成

22 項目の質問, 追加質問, コメント, その他

##### 4. 3. 2 結果の表示

### 5. 意義と問題点

#### 5. 1 意義

新たな視点の導入, 有効度調査の可能性

#### 5. 2 問題点

データの有効性の問題, 長期的評価の問題, 概念の一貫性のなさの問題, 因果関係の特定の問題

### 6. 終わりに

#### 参考文献

上岡真紀子. 慶應義塾大学における利用者調査の事例. 情報の科学と技術. 2008, vol.58, no.6, p. 278-284.

法政大学図書館. 「2008 年度学生生活実態調査」(自由記述)における図書館への意見・要望について.

[http://www.hosei.ac.jp/general/lib/3rd\\_news/img/2008\\_gakusei\\_jittaichosa.pdf](http://www.hosei.ac.jp/general/lib/3rd_news/img/2008_gakusei_jittaichosa.pdf),  
(accessed 2008-10-13).

茨城大学附属図書館自己点検・評価報告書: 図書館をより身近に活用してもらうために.  
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/tenken/index.htm>, (accessed 2008-10-13).

戸田あきら, 永田治樹. 学生の図書館利用と学習評価: 大学図書館におけるアウトカム評価に関する研究. 日本図書館情報学会誌. 2007, vol.53, no.1, p.17-34.

神奈川県図書館協会図書館評価特別委員会編. 公共図書館の自己評価入門. 日本図書館協会, 2007, 142p.

\* I 部評価の基礎編, II 部来館者調査実例編, III 部図書館員のための統計の基礎編から構成。II 部では, 実際に実施した来館者調査の事例に即して, 調査票の設計から調査の分析に至るまでの一連の過程を, III

部では、分析に必要な統計学の知識について、それぞれ解説している。大学図書館の調査に応用できる記述も多い。

Parasuraman, A; Zeithaml, V.A.; Berry, L.L. SERVQUAL: A Multiple -item scale for measuring consumer perceptions of service quality. *Journal of Retailing*. 1988, vol.64, no.1, p.12-40.

Parasuraman, A; Zeithaml, V.A.; Berry, L.L. Reassessment of expectations as a comparison standard in measuring service quality. *Journal of Marketing*. 1994, vol.58, no.1, p.111-124.

LibQUAL+™. <http://www.libqual.org/>, (accessed 2008-10-13).

Hernon, P; Altman, E. *Assessing Service Quality*. American Library Association, 1998, 243p.

佐藤義則. 図書館情報サービスの SERVQUAL 調査:東北大学附属図書館の報告. 山形県立米沢女子短期大学附属生活文化研究所報告. 2002, no.29, p.29-41.

佐藤義則, 永田治樹. 図書館サービスの品質測定について:SERVQUAL の問題を中心に. *日本図書館情報学会誌*. 2003, vol.49, no.1, p.1-14.

# 利用者の視点からの 図書館サービス評価

2008年10月23日  
私立大学図書館協議会東地区部会研究部研修会  
須賀千絵(慶應義塾大学非常勤)

1. 多角的な視点からの評価
2. 評価の対象
3. 評価の方法
4. SERVQUAL評価 (LibQUAL+™)
5. 意義と問題点
6. 終わりに  
「あなたの大学ではどうしていますか？」

2

## 1. 多角的な視点からの評価

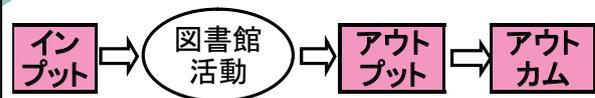
- 文部科学省
- 経営者
- 教育者
- 大学職員
- 利用者  
(教員, 職員, 学生)
- 国民, 地域住民  
など...

利用者は、  
評価の視点の  
ひとつにすぎない

3

## 2. 評価の対象

- 2.1 インput, 活動, アutput, アutカム



4

## 2. 評価の対象

- 2.2 満足度, 有効度, 許容範囲

評価の際の主な「ものさし」

- 満足度: サービスに対する情緒的満足
- 有効度: 利用者の目的達成の過程で, 図書館サービスが役立ったかどうか
- 許容範囲: 期待した水準—実際に認知した水準(LibQUAL+™)

5

## 3. 評価の方法

- 3.1 主要な方法

- 質問紙(アンケート)
- フォーカス・グループ・インタビュー
  - 同じタイプの利用者を複数集め, 一定のテーマについて, 自由に話し合ってもらって進めるインタビュー
  - 図書館に対する認識, ニーズを知る (評価の前段階)

6

### 3. 評価の方法

#### 3.2 フォーカス・グループ・インタビュー

慶應義塾大学利用調査ワーキング・グループ

- 2007年7月実施
- 目的は利用者ニーズの把握
- 学部1, 2年生 2キャンパス
- 図書館に来るグループ, 来ないグループ  
1グループ 5~7名 計23名
- 「場としての図書館」(ゾーニング), 「学習支援」(学習の文脈のなかでの支援)

7

### 3. 評価の方法

#### 3.3 質問紙の事例1

法政大学の学生生活実態調査における図書館への意見・要望

- 2008年6~7月実施
- 実態調査 4年に1度実施, 10,000名を無作為抽出  
→ 「自由記述」欄から図書館への意見, 要望を抽出
- 29の意見・要望について回答をwebで公開

8

### 3. 評価の方法

#### 3.4 質問紙の事例2

茨城大学附属図書館自己点検・評価報告書

- 大学自己評価の一環
- 1999年11月実施
- 教員(回収率約30%), 学生(同約50%)
- 属性, 利用頻度, 利用目的, サービスの認知や利用経験, サービスに対する満足など
- 他にも多数の大学で, 同様のアンケート実施の報告あり

9

### 3. 評価の方法

#### 3.5 質問紙の事例3

戸田・永田による文教大学調査 (1)

- 2003年9~10月 郵送
- 学部卒業生対象, 回答340名(回収率33.7%)
- アウトプットとアウトカムを区別し, 特にアウトカムに注目した調査

10

#### 戸田・永田による文教大学調査 (2)

1. 利用内容  
「本を借りた」「データベースを利用した」
  2. 利用により得たもの(アウトプット)  
「知りたいと思った情報や知識」「面白い本を読んで得られる充実感」
  3. 学習成果(アウトカム)  
「専攻分野の専門知識」「物事を吟味し考える力」
  4. 図書館貢献度 「一般教養的知識獲得に役立った」
- 1~3は相関あり, 図書館を利用, 何か入手, かつ学習成果を得た学生は, 図書館の貢献を評価

11

### 3. 評価の方法

#### 3.6 質問紙調査を実施する際の注意点

- 「何を知りたいのか」を考えて設計  
× 「調査をしてみれば何かわかるだろう」
- 回収率を上げる工夫
  - わかりやすい表現
  - 多肢選択の利用
  - 10~15分程度で終了できる程度の分量
  - 印刷物? インターネット(PC, ケータイ)?  
プレ・テストで検証
  - 景品

12

#### 4. SERVQUAL評価

##### 4.1 サービス品質の考え方

- 1980年代後半に、マーケティング分野の研究者であるParasuraman, Zeithaml and Berryがサービス品質評価のために開発した方法
- あらゆる種類のサービスに対して普遍的に応用可能

13

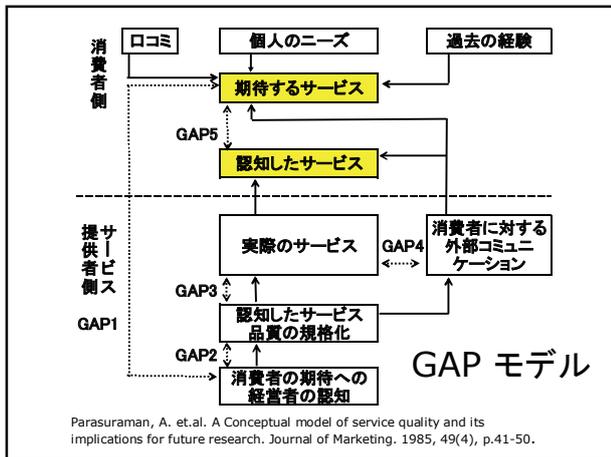
#### 4. SERVQUAL評価

##### 4.1 サービス品質の考え方

開発の方法

1. 文献レビュー
  - サービス品質とは、**消費者の期待と実際のサービスの成果との対比**から形成
2. インタビュー調査
  - 企業の管理職と消費者グループが対象
  - 銀行、信販会社、証券会社、修理業の4つの業種

14



#### 次元 (dimension)

1. インタビューから、サービス品質を評価する際の規準 (criteria) を10種類導出  
信頼性、反応性...
2. 10種類の規準を具体的に表現する97項目を設定  
「約束通りのサービスを提供」「迅速にサービスを提供」...
3. 消費者に実際に、サービスに対する期待と認知の値を評価してもらい、統計学的分析によって重複を除く
4. 最終的に**5種類の「次元」**に整理

Parasuraman, A. et al. SERVQUAL: A multiple-item scale for measuring consumer perceptions of service quality. Journal of Retailing. 1988, 64(1), p.12-40.

#### 4. SERVQUAL評価

##### 4.1 サービス品質の考え方

- ① 信頼性 (reliability)
- ② 反応性 (responsiveness)
- ③ 確実性 (assurance)
- ④ 共感性 (empathy)
- ⑤ 具象性 (tangibles)

各次元4~5項目 合計22の質問項目

17

#### 3種類の水準と許容範囲

- 期待水準
  - 1. 望ましい水準
- 許容範囲 (indicated by a double-headed arrow between 1 and 2)
- 2. 最低限の水準
- 3. 実際に認知した水準

Parasuraman, A. et al. Alternative scale for measuring service quality. Journal of Retailing. 1994, 70(3), p.201-230.

18

#### 4. SERVQUAL評価

##### 4.2 図書館へのSERVQUALの応用

- 4.2.1 CookらによるLibQUAL+™  
→共通ツールの作成
- 4.2.2 Hersonらによる研究  
→個々の図書館が個別に質問項目を設定すべき
- 4.2.3 日本における応用  
→SERVQUALの適用  
→LibQUAL+™実施(慶應義塾大学)

19

##### 4.2.1 CookらによるLibQUAL+™

- SERVQUALをもとに、図書館サービスを対象に、独自の質問項目と次元を導出
- 図書館分野の品質評価ツール (LibQUAL+™)を構築
- 2000年調査開始
- 2008年 214機関が参加
- 12種類の言語に対応(2007年)

20

##### 4.2.2 Hersonらによる研究

- 個々の図書館が個別に質問項目を設定すべきという立場
- サービス品質の「構成要素」
  - ①資源:情報の内容
  - ②組織:サービス環境と資源のデリバリー
  - ③サービスを提供する職員

21

##### 4.2.3 日本における応用



慶應のLibQUAL+™  
調査ポスター

- 佐藤・永田による研究
  - 1999年～ 国内の大学図書館でSERVQUAL調査を数回にわたって実施
  - 因子分析の結果、質問項目が対応すべき次元と結び付かない
- LibQUAL+™
  - 2008年調査に慶應義塾大学、金沢大学、大阪大学が参加

22

#### 4. SERVQUAL評価

##### 4.3 LibQUAL+™

- 4.3.1 質問紙の構成
  - 22のコア質問項目 ← SERVQUAL
    - 3種類の次元に対応
    - 水準: 最低限, 望ましい, 実際の認知
  - 11の追加質問
    - 全般的満足度や利用頻度など
  - 自由記入

23

##### LibQUAL+™ コア質問項目のイメージ

	最低限の レベル	望ましい レベル	実際に 認知した レベル	該当 なし
1. 図書館員は利用者 に自信を与えてくれる	低 ○○○○○○○○○○ 123456789	高 (9段階)	(9段階)	チェ ック 欄
2.				

24

## コア質問項目と次元

- 22のコア質問項目は3種類の次元に対応
- 次元:
  - ①サービスの姿勢  
(affect of service)
  - ②情報のコントロール  
(information control)
  - ③場としての図書館  
(library as a place)

LibQUAL+™ Spring 2004 Survey: Sample LibQUAL+™ Institution.  
<http://www.libqual.org/documents/SampleLibQUALNotebook.pdf>,  
(accessed 2008-10-21).

25

## 次元:サービスの姿勢(1)

- 図書館員は利用者に自信を与えてくれる
- 図書館員は利用者ひとりひとりに注意を向けている
- 図書館員は常に礼儀正しく丁寧な態度である
- 図書館員は利用者の質問に対応する準備ができています
- 図書館員は思いやりを持った態度で利用者に接している

26

## 次元:サービスの姿勢(2)

- 図書館員は利用者のニーズを理解している
- 図書館員は進んで利用者を援助しようとしてくれる
- 図書館員は、利用者にとって、課題解決の際に頼りになる存在である

27

## 次元:情報のコントロール(1)

- 自宅またはオフィスから、電子的情報源にアクセスできる
- 図書館のwebサイトは、自分ひとりの力で必要な情報を見つけられるように作られている
- 学習・教育・研究に必要な印刷資料が揃っている
- 必要な電子的情報源が揃っている

28

## 次元:情報のコントロール(2)

- 必要とする情報に容易にアクセスできるような最新の設備・機器がある
- 自分ひとりでも容易に検索できるようなツールがある
- 他人の力を借りなくても、容易にアクセスできるよう、情報が整理されている
- 学習・教育・研究に必要な印刷体の雑誌あるいは電子ジャーナルが揃っている

29

## 次元:場としての図書館

- 図書館は、学習・研究に刺激を与えるような空間である
- ひとりで学習・研究するための静かな空間がある
- 快適で足を運びたくなるような場所である
- 学習や研究のための心休まる場所である
- グループでの学習や研究のための場所がある  
(以上 須賀訳)

30

#### 4. 3 LibQUAL+™ 4. 3. 2 結果の表示

最低限の水準, 実際に認知した水準,  
望ましい水準の差異を視覚的に表示

- レーダー・チャート
  - 質問項目別の結果
- バー・チャート
  - 次元別の結果

LibQUAL+™ Spring 2004 Survey Sample LibQUAL+™ Institution.

31

### 5. 意義と問題点

#### 5. 1 意義

- 新たな視点の導入
- 有効度調査の可能性

32

### 5. 意義と問題点

#### 5. 2 問題点

- データの有効性の問題
- 長期的評価の問題
- 概念の一貫性のなさの問題
- 因果関係の特定の問題

33

### 6. 終わりに

- 問題は多いものの, やはりサービス評価において, サービスの受け手の視点は, 無視できないのでは?
- 多様な視点の「ひとつ」として理解

34

#### ところで 「あなたの大学ではどうしてますか？」

- フォーカスグループによる調査をしたことがある
- 定期的ではないが, 利用者に対する質問紙調査を実施した経験がある
- 利用者に対する質問紙調査を, 定期的を実施している

35

## 学生の情報リテラシーに 与える図書館利用教育の効果 ～国際基督教大学における評価の試み～

国際基督教大学図書館  
畠山珠美

2008年度私立大学図書館協会東地区部会研修会  
2008年10月24日

1

## 英語教育プログラムとの連携

- **英語教育プログラム** (English Language Program, ELP) とは
  - 4月入学生の必修科目
  - 大学生に必要な「読む」「書く」「聞く」「話す」能力を身につける
  - カリキュラム
    - ・ Academic Reading and Writing Course (1年次)
    - ・ Reading and Content Analysis Course (1年次)
    - ・ Communicative Strategies (1年次)
    - ・ Sophomore English (2年次)
    - ・ Theme Writing (2年次)

2

## ICUにおけるELPの位置づけ

- ELP = 導入教育
- ELP = 情報リテラシー教育



3

## 図書館利用教育の内容

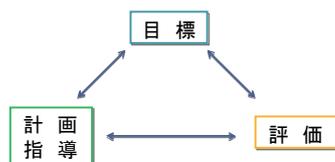
- ELPの3コマ(1コマ=70分)を使用
- **1年次春学期**(4月中旬～5月上旬)  
図書館資料の基礎知識とOPACの使い方
- **1年次秋学期**(9月中旬～10月上旬)  
雑誌論文の探し方  
(オンラインデータベースの使い方)
- **2年次**(各学期で開講)  
主題に合った文献の探し方

4

## 評価の必要性

### 教育は

教育目標を中心に、それを達成することに関連した生徒の能力・適正、指導計画、指導内容、指導法、評価法等が有機的なシステムを形成した存在である。



出典：橋本重治「新・教育評価法概説」金子書房、1979

5

## 評価の導入

### ● アンケート調査の実施

#### 【春学期】(2002～2004年度)

- 今までOPACを利用したことがあるか(事前知識)
- レクチャーの内容を理解できたかどうか
- コメント

#### 【秋学期】(2003～2004年度)

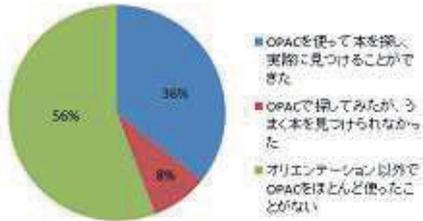
- 今までデータベースを使ったことがあるか(事前知識)
- レクチャーの内容を理解できたかどうか
- コメント

6

## アンケート結果①

### 1 年次春学期

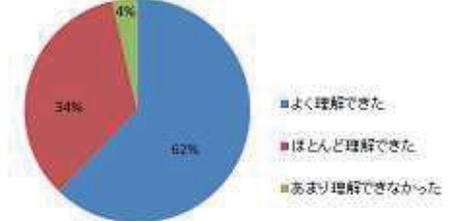
1. 今日までOPACを使ったことがありますか？



## アンケート結果②

### 1 年次春学期

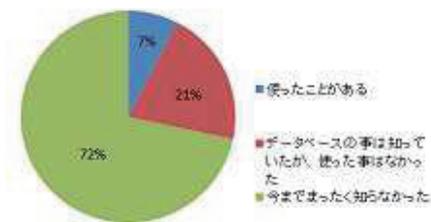
2. レクチャーの内容は理解できましたか？



## アンケート結果③

### 1 年次秋学期

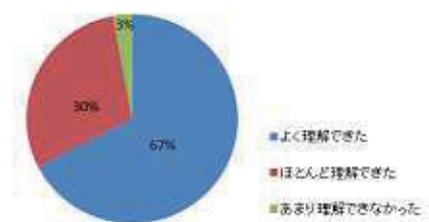
1. 今までデータベースを使ったことはありますか？



## アンケート結果④

### 1 年次秋学期

2. レクチャーの内容は理解できましたか？



## 評価方法の再考

### アンケート調査の問題点

- 自己評価のため客観性に欠ける
- 効果が数値化できない
- 改善点が明確にならない



テストの導入  
(2005年度～)

## テストの目的

### 短期的な効果を明らかにする

- 情報基礎知識(1年次春学期)
- 情報検索能力(1年次春学期)
- 文献探索基礎能力(1年次秋学期)
- 文献探索能力(2年次)

### 効果の継続性(長期的効果)を明らかにする

情報検索能力および文献探索基礎能力が維持されているかを測定する。

## 調査方法

### ● 短期的効果

- ▶ 全クラスを2つのグループ(①、②)に分ける
- ▶ ①グループには事前テスト(pre-test)を、
- ▶ ②グループには事後テスト(post-test)を実施し、テスト結果を比較する

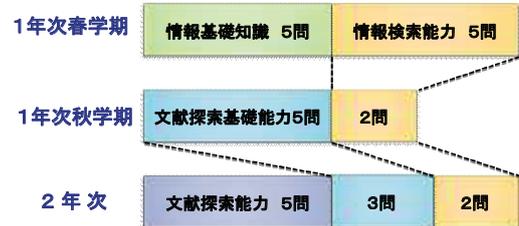
### ● 長期的効果

- ▶ 1年次春学期テストの一部を1年次秋学期および2年次のテストに加える
- ▶ 1年次秋学期テストの一部を2年次のテストに加える
- ▶ 継続して実施したテストの結果を比較する

- テストはWebフォームを用いる

13

## テストの構成



14

## 調査内容

### ● 1年次春学期のテスト

- 実施時期 2005年4月～5月
- 対象者 1年生 584名

### ● 1年次秋学期のテスト

- 実施時期 2005年9月～10月
- 対象者 1年生 575名

### ● 2年次のテスト

- 実施時期 2006年4月、9月、12月
- 対象者 2年生 375名

15

### 1年次春学期 ① 情報基礎知識 5問

No.	質問	pre-test		post-test	
		人数	割合	人数	割合
1	ICU図書館の資料はどのような順番で並んでいますか。 (ア) タイトルのアルファベット順 (イ) 図書番号順 (ウ) コールナンバー順	44	16.0%	6	2.1%
		125	45.5%	34	11.8%
		77	28.0%	249	86.2%
2	レファレンスブックとは? (ア) 教科書 (イ) 辞書・事典 (ウ) 教員がクラスで指定する必読図書	42	15.3%	4	1.4%
		62	22.5%	255	88.2%
		147	53.5%	30	10.4%
3	ICU図書館が所蔵している新聞にはどんな種類がありますか? (いくつでも) (ア) 縮刷版 (イ) マイクロフィルム (ウ) CD-ROM (エ) オンライン版	168	61.1%	284	98.3%
		83	30.2%	256	88.6%
		86	31.3%	189	65.4%
		185	67.3%	215	74.4%
	全問正答者数・平均正答率	33	47.5%	144	81.7%
4	リザーブブックとは? (ア) 予約されている図書 (イ) 館外持ち出し禁止の図書 (ウ) 教員がクラスで指定する必読図書	129	46.9%	35	12.1%
		42	15.3%	8	2.8%
		91	33.1%	243	84.1%
5	自動化書庫にある資料の利用のしかたは? (ア) レファレンスサービスセンターに申し込む (イ) ドキュメントサブライ・センターに申し込む (ウ) OPACから指示を出す	77	28.0%	30	10.4%
		40	14.6%	13	4.5%
		112	40.7%	242	83.7%
	平均正答率		34.4%		84.8%

\* 無回答は省略

\* 網掛けが正解

16

### 1年次春学期 ② 情報検索能力 5問

No.	質問	pre-test		post-test	
		人数	割合	人数	割合
6	OPACで検索できるものを全て選んでください。 (ア) ICU図書館所蔵の図書 (イ) 国内で出版されている図書 (ウ) ICU図書館所蔵の雑誌 (エ) ICU図書館所蔵のビデオテープ (オ) ICU卒業生の卒業論文 (カ) 全問正答者数・平均正答率	239	86.9%	287	99.3%
		84	30.5%	53	18.3%
		212	77.1%	281	97.2%
		189	61.5%	256	88.8%
		106	38.5%	74	25.6%
		61	21.3%	156	52.2%
7	OPACで使用されている「件名」という語句の意味は? (ア) 本のテーマのこと (イ) 本のサブタイトルのこと (ウ) 本の所蔵情報のこと	195	70.9%	193	66.8%
		23	8.4%	22	7.6%
		28	10.2%	73	25.3%
8	下記はOPACの検索結果の一部です。これはどんな種類の資料を表していますか? 世界経済評論 P.332/05/Sa225 (ア) 図書 (イ) 雑誌 (ウ) 新聞 (エ) マイクロフィルム (オ) 辞書・事典	150	54.5%	57	19.7%
		49	17.8%	213	73.7%
		14	5.1%	7	2.4%
		11	4.0%	2	0.7%
		12	4.4%	9	3.1%
9	OPACで「アメリカ」と「経済」のどちらの単語も含まれる本を検索する場合の検索式は? (ア) アメリカ 経済 (間に空白を入れる) (イ) アメリカ and 経済 (ウ) アメリカ and 経済	203	73.8%	279	96.5%
		27	9.8%	4	1.4%
		28	10.2%	2	0.7%
10	OPACはどこまで利用できますか? (ア) ICU図書館内 (イ) ICUキャンパス内 (ウ) インターネットが利用できるどこからでも	93	33.8%	64	22.1%
		48	17.5%	25	8.7%
		110	40.0%	197	68.2%
	平均正答率		58.5%		78.7%

\* 無回答は省略

\* 網掛けが正解

### 1年次秋学期 文献探索基礎能力 5問

No.	質問	pre-test		post-test	
		人数	割合	人数	割合
1	ICUが契約している主要なオンラインデータベースはどこからアクセスできますか? (ア) レファレンスサービスセンターの専用PC (イ) キャンパス内のみ利用可 (ウ) 学内外どこからでも利用可	16	6.8%	11	4.7%
		112	47.7%	49	20.3%
		96	40.8%	176	74.6%
2	下記の中で、雑誌記事を検索するためのツールとして最もふさわしいのはどれですか? (ア) Google (イ) OPAC (ウ) ProQuest	13	5.6%	7	3.0%
		84	35.7%	2	0.8%
		123	52.3%	226	95.8%
3	ProQuestに収録されているデータの範囲は? (ア) 全ての記事の全文を収録 (イ) 全文記事とAbstractの記事が混在 (ウ) 全ての記事がCitationまたはAbstractだけ	81	34.5%	23	9.7%
		91	38.7%	205	86.9%
		31	13.2%	8	3.4%
4	ProQuestで「Non Governmental Organizations」または「NGO」が含まれる記事を検索する場合の検索式は? (ア) Non Governmental Organizations NGO (間) (イ) Non Governmental Organizations or NGO (ウ) "Non Governmental Organizations" or NGO	103	43.8%	8	3.4%
		56	23.8%	30	12.7%
		52	22.1%	197	83.6%
5	下記はProQuestの検索結果です。雑誌のタイトルはどれですか? Japanese Buddhism: A Cultural History Steven Heine, Philosophy East and West, Jan 2005, Vol. 55, Iss. 1, p. 125 (2) (ア) Japanese Buddhism (イ) A Cultural History (ウ) Philosophy East and West	64	27.2%	60	25.4%
		83	35.3%	73	30.9%
		58	24.7%	101	42.8%
	平均正答率		35.8%		76.7%

\* 無回答は省略

\* 網掛けが正解

16

**2年次 文献探索能力 5問**

	pre-test		post-test	
	人数	割合	人数	割合
1 CSAIに収録されているデータの範囲は？				
(ア) 全ての記事の全文を収録	36	21.8%	18	8.6%
(イ) 全文記事とAbstractの記事が混在	43	26.1%	53	25.2%
(ウ) 全ての記事がCitationまたはAbstractだけ	44	26.7%	135	64.3%
2 下記はCSAの検索結果です。 Social and Environmental Influences on Endangered Species: A Cross-National Study Hoffman, John P. Sociological Perspectives. Vol 47(1), Spr 2004, pp. 79-107				
① 雑誌のタイトルはどれですか？				
(ア) Social and Environmental Influences on Endangered	74	44.8%	43	20.5%
(イ) A Cross-National Study	49	29.7%	51	24.3%
(ウ) Sociological Perspectives	32	19.4%	113	53.8%
② 「(1)」は何を表していますか？				
(ア) issue number	85	51.5%	127	60.5%
(イ) page number	19	11.5%	21	10.0%
(ウ) volume number	47	28.5%	59	28.1%
3 CSAの検索結果にある「Descriptors」と同じ意味合いで使用されているOPACの項目はどれですか？				
(ア) Subject	54	32.7%	151	71.9%
(イ) Call NO.	48	29.1%	37	17.6%
(ウ) Location	26	15.8%	17	8.1%
4 IOU図書館で所蔵していない雑誌記事の申込方法は？				
(ア) レファレンスサービスセンターで申込む	50	30.3%	78	37.1%
(イ) ドキュメントサプライセンターで申込む	55	33.3%	26	12.4%
(ウ) 図書館ホームページ上の申込フォームを利用する	28	17.0%	103	49.0%
平均正答率		29.5%		59.9%

\* 無回答は省略  
\* 網掛けが正解

## 短期的効果のまとめ

- テスト結果(正答率)

	pre-test	post-test
1年次春学期	46.5%	81.8%
1年次秋学期	35.8%	76.7%
2年次	29.5%	59.9%

- 全てのテストで正答率が約2倍にup
- 書誌事項に関する理解が低い(1年次秋学期および2年次)
- 二次情報データベースの理解不足(2年次)

## 長期的効果の測定結果

- 情報検索能力 2問

- OPACで検索できるものは？
- OPACの「件名」の意味は？

	1年次春 pre-test	1年次春 post-test	1年次秋	2年次
①	71.3%	88.2%	75.8%	80.1%
②	70.9%	66.8%	77.1%	82.9%
平均正答率	71.1%	77.5%	76.5%	81.5%

## 長期的効果の測定結果

- 文献探索基礎能力 3問

- オンラインデータベースはどこから利用できる？
- 雑誌記事を検索するためのツールで最も相応しいのは？
- ProQuestに収録されているデータの範囲は？

	1年次秋 pre-test	1年次秋 post-test	2年次
①	40.9%	74.6%	75.7%
②	52.3%	95.8%	87.2%
③	38.7%	86.9%	83.5%
平均正答率	44.0%	85.8%	82.1%

## 長期的効果のまとめ

- 正答率において、大きな低下は見られない
- 年次が上がるに従って設問間の正答率に偏りがなくなっている
- 情報検索能力と文献探索能力は、どちらも高い水準で維持されている

## 評価の効果

- 講師の取り組む姿勢・指導力が向上
- 改善点が明確になり、指導方法にすぐに反映できる
- 図書館利用教育の実績の明確化

大学へのPR材料になる

情報リテラシー教育の中核を図書館が担う

## 明治大学図書館「図書館活用法」 プログラム評価活動

明治大学図書館評価チーム  
西脇亜由子 / 矢野恵子 / 久松薫子

## 1. 図書館活用法と評価導入まで

### 1-1. 「図書館活用法」とは1

- 明治大学図書館におけるさまざまな情報リテラシー教育・図書館利用教育の取組み...「教育の場」としての図書館の積極的活用を推進
- ↓
- 2007年度に「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」採択

3

### 1-2. 「図書館活用法」とは2

- 情報リテラシー教育の中で最も体系的
- 学部間共通総合講座(学部を問わず受講可能、半期2単位)
- 2000年度から開講、教員と図書館職員が協働で講師を務める
- 駿河台・和泉・生田3キャンパスで実施

4

### 1-3. 「評価」導入まで

- 図書館活用法の包括的な見直しへの要望のたかまり
- プログラム全体の一貫性、講師間の共通理解の必要性...「タスクフォース」会議等を通じ図られてはきたものの、完全ではない
- 「活用法」の教育効果を測定する方法論への要求
- 「特色GP」採択が直接のきっかけとなり、「評価」導入
- 評価コンサルティングをハワイ大学の研究者チームに依頼

5

## 2. プログラム評価とその流れ

## 2-1. 「プログラム評価」とは・・・

プログラムについて共通理解や改善を図ったり、価値を明らかにしたり、存続を判断したりと、**多様な目的のためにプログラムに関する情報を系統的に収集**する活動である。評価はプログラムの問題点を明らかにし、証拠を用いて解決へと改進するが、どのような証拠をどのように集めるか(データ収集方法)は単一的な方法に限られない

(Norris, 2006)

Norris, J. M. (2006). The why (and how) of student learning outcomes assessment in college FL education. *Modern Language Journal*, 90(4), 590-597

7

## 2-2. アセスメント vs. プログラム評価

・ アセスメントとは・・・

学習効果の向上を図るために、組織的にデータを集めて、**学習者の**達成度や学習過程などを分析・判断する事

学習者に焦点

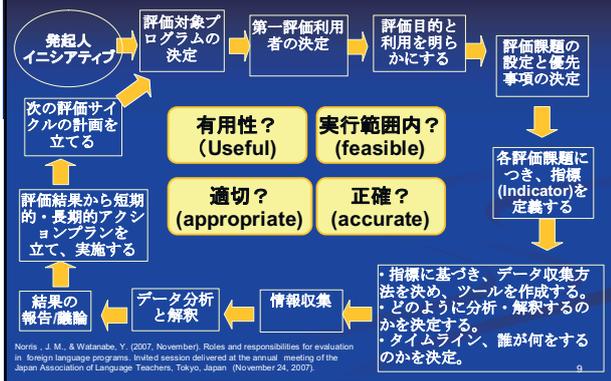
・ プログラム評価とは・・・

プログラムの改善を図ったり、価値判断をしたり、プログラムの理解を促したりするために、(学習者についてだけでなく、)**プログラムの様々な要素**について必要なデータを組織的に集め、これらのデータを使ってプログラム作りを進める事

プログラムに焦点

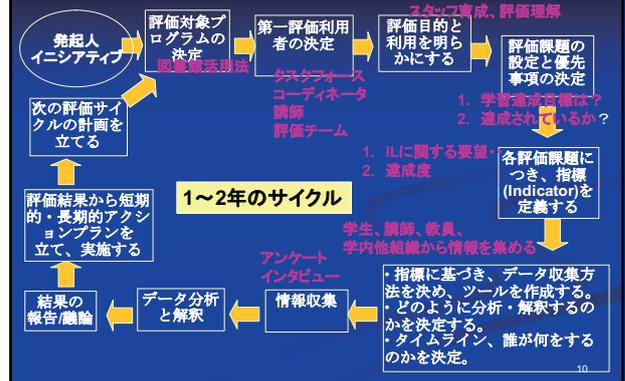
8

## 評価概観とステップ



9

## 評価概観とステップ



10

## 2-3. 評価ステップ(対象と利用者)

・ 評価対象プログラム→図書館活用法

・ プログラム利害関係者→学生、講師、各学部教員、タスクフォース、コーディネータ、学内他組織、他大学、文科省・・・

・ 主要評価利用者→タスクフォース、コーディネータ、活用法講師、評価チーム

11

## 2-4. 評価ステップ(評価目的と利用)

・ 評価結果の利用(目的)

1. 図書館活用法の学習達成目標を明示する
2. 学習達成目標を明確化し、カリキュラム内容と構成を改善する
3. 大学全体における情報リテラシー教育の目指すものを明確化し、その中での図書館の教育的役割を提言する

・ 評価プロセスの利用(目的)

1. 長期的に評価を行うことのできるスタッフの育成
2. 全教職員の評価取り組みへの理解と協力

12

## 2-5. 評価ステップ(評価課題)

### ・評価課題の設定

課題1: 学生・活用法講師・図書館職員・学部教員・図書館外学内組織の情報リテラシー学習/教育ニーズから見られる学習達成目標とは何なのか? → **今年度の課題**

課題2: 現在の学習内容で学習/教育ニーズが反映されているのか? → **次年度以降の課題**

13

## 2-6. 評価ステップ(評価課題詳細)

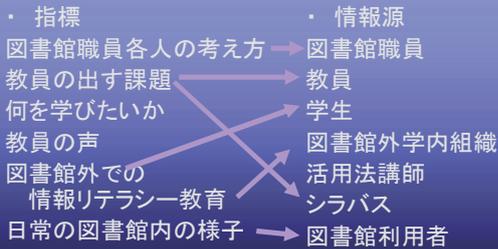
設問1: 学生・活用法講師・図書館職員・学部教員・図書館外学内組織の情報リテラシー学習/教育ニーズから見られる学習達成目標とは何なのか?

- ・図書館外で行われている情報リテラシー教育には何があるか
- ・図書館に期待される情報リテラシー教育は何か
- ・1・2年生、3・4年生のカリキュラムを異なるものにすべきか否か
- ・人文系と化学系によってカリキュラムを異なるものにすべきか否か
- ・レポート・論文指導をどこまですべきか
- ・導入教育としての位置づけとしての図書館活用法であるべきかどうか
- ・図書館活用法以外の図書館内で行われている情報リテラシー教育で扱える内容は何か?

14

## 2-7. 評価ステップ(指標と情報源)

設問1: 学生・活用法講師・図書館職員・学部教員・図書館外学内組織の情報リテラシー学習/教育ニーズから見られる学習達成目標とは何なのか?



15

## 2-8. 評価ステップ(情報収集)

設問1: 学生・活用法講師・図書館職員・学部教員・図書館外学内組織の情報リテラシー学習/教育ニーズから見られる学習達成目標とは何なのか?

<p>情報源: 学生 データ収集: アンケート →駿河台実施済み、和泉、生田は2008年度後期実施予定。</p>	<p>情報源: 活用法講師・図書館職員 データ収集: アンケート →実施済み</p>
<p>情報源: 学部教員 データ収集: アンケート →2008年度後期実施予定</p>	<p>情報源: 図書館外学内組織(学部、学長...) データ収集: インタビュー →2008年度後期実施予定</p>

16

## 3. 調査

### 3-1. 学生(駿河台)アンケート

- ・ 4月と7月の2回実施
- ・ 2008年度前期履修者対象
- ・ 学部間共通総合講座のため、所属学部さまざま
- ・ 学部3・4年生
- ・ Webアンケート
- ・ 4月は授業内で実施、7月は授業内で実施を告知、7/19より5日間に回答

18

### 3-2. 学生(駿河台)アンケート調査内容

- 4月:
  - 活用法を受講して身につけたいこと
  - 図書館活用法の受講のきっかけ
- 7月:
  - バックグラウンド(所属学部など)
  - 講師が「教えたい」と思う項目それぞれをどれだけ身につけたいか
  - 受講して身についたと思うこと
  - 授業評価

19

### 3-3. 学生(駿河台)4月アンケート結果

- 資料や情報の活用、レポート作成など実用的な「スキル」に関する要望高
- 図書資料の種類や配架場所の知識など、図書館知識に関するものは低い
- レポート・論文作成技術は要望は高いものの学生の中でも意見にややばらつきあり
- 受講理由は「利用機会を増やしたい」などが多い

20

### 身につけたい項目平均値上位5位(4月アンケート)

	N	M	SD	全く 思わ ない	あまり 思わ ない	ある 程度 思う	非常 に思 う	どち らとも 言え ない
図書館を効果的に利用するためのコツ	58	3.62	0.64	2%	3%	26%	69%	1
レポート・論文への資料・情報活用方法	57	3.61	0.7	4%	2%	25%	70%	2
図書資料の利用・活用スキル	58	3.6	0.65	2%	3%	28%	67%	1
レポートの書き方	58	3.59	0.65	2%	3%	29%	66%	1
効果的な検索キーワード方法	58	3.55	0.57	0%	3%	38%	59%	1

21

### 3-4. 学生(駿河台)7月アンケート結果1

	M	SD	Min	Max
大学通学回数	3.96	1.07	1	7
大学図書館利用回数	2.3	1.8	0	10
図書館利用/通学回数	0.72	1	0	8
読書量月平均	4.31	6.1	0	34

- 1週間のうち3-4日登校
- 週2-3回図書館を利用
- ひと月に4冊くらい本を読む

・・・履修学生の平均的な姿

22

### 3-5. 学生(駿河台)7月アンケート結果2

#### 身につけたい項目

- 図書館資料を活用したレポート・論文の書き方、OPAC理解と検索などに希望が高い
- 著作権理解にも比較的強い希望
- 図書の歴史、図書館の種類を学ぶといった項目には希望低

23

### 身につけたい項目上位5位(7月アンケート)

	N	M	SD	全く 思わ ない	あまり 思わ ない	ある程 度思う	非常 に思 う	ある程 度思う +非常 に思う	判断で きない (回答 数)
図書館資料を活用してレポート・論文を書くことができる	71	3.62	0.52	0.0%	1.0%	35.0%	63.0%	98.0%	0
OPACと検索を理解し、それを利用して図書・雑誌・新聞の検索ができる	70	3.57	0.58	0.0%	4.0%	34.0%	61.0%	95.0%	1
文章、図表の引用の技術、マナーを身につける	71	3.56	0.53	0.0%	1.0%	41.0%	58.0%	99.0%	0
様々な検索テクニック(前方一致検索等)を使うことができる	70	3.54	0.58	0.0%	4.0%	37.0%	59.0%	96.0%	1
引用・参考文献の役割を理解し、文献検索の手がかりとして使うことができる	71	3.52	0.61	1.0%	1.0%	41.0%	56.0%	97.0%	0

24

### 3-6. 学生(駿河台) 7月アンケート結果3

#### ・身についたと思うこと

図書館・図書資料の効果的な利用方法、  
レポート・論文への資料活用方法、効果的  
な検索など

25

### 身についたと思うこと 平均値上位5位

	N	M	SD	全く 思わ ない	あまり 思わ ない	ある 程度 思う	非常 に思 う	どち らも 言え ない
図書館を効果的に利用するための コツ	58	3.62	0.64	2%	3%	26%	69%	1
レポート・論文への資料・情報活 用方法	57	3.61	0.7	4%	2%	25%	70%	2
図書資料の利用・活用スキル	58	3.6	0.65	2%	3%	28%	67%	1
レポートの書き方	58	3.59	0.65	2%	3%	29%	66%	1
効果的な検索キーワード方法	58	3.55	0.57	0%	3%	38%	59%	1

26

### 3-7. 講師/図書館職員アンケート

- ・ 2007・2008年度活用法講師、図書館職員  
対象
- ・ シラバス掲載の学習内容+αについて、  
学ばせたいとどの程度考えるかを問う
- ・ メールで告知、7/19より5日間の期間に回  
答

27

### 3-8. 講師/図書館職員アンケート結果

- ・ 告知51人中41名回答 平均値
- ・ OPAC検索など実用技術(3.8) +  
著作権(3.78)  
出典表記方法・注のつけ方(3.73)  
大学図書館の役割(3.68)  
など実用の前に知っておくべきことに  
希望高

28

### 3-9. 学生、講師/職員結果比較

両者に共通していること:

- ・ 情報の探し方など「使いこなす技術」に希望高  
い
- ・ 文字・書物の歴史、インターネット成立の概要  
など実用に直接結びつきにくい歴史的なこと  
には希望低

29

### 3-10. 学生、講師/職員結果比較

学生、講師/職員間で異なる傾向のもの

- ・ 職員が教えたい希望が強い:  
大学図書館への招待(講座の意義など導  
入的内容)
- ・ 学生が学びたい希望が強い:  
レポート・論文の書き方

30

### 3-11. 学生、講師/職員結果比較

#### ・その他

著作権法については職員の教えた要望・学生の学びたい要望ともに高いが、学生の意見にはばらつきあり

31

### 3-12. 学生・講師/職員結果の議論

- 授業内容を改善すべき項目  
館種の違い、蔵書・施設の紹介、読書の愉しみ、様々な文献の取り扱い方
- 学生の希望は強くないが、授業内容として残すべき項目  
授業の意義、大学図書館の役割

32

### 3-13. 学生・講師/職員結果の議論

- 継続を検討すべき項目  
明治大学図書館の歴史、図書の歴史と図書館
- 学生のレベルのばらつきを考慮すべき項目  
図書・新聞・雑誌情報の探し方、著作権

33

### 3-14. 学生・講師/職員結果の議論

- 「レポート・論文の書き方」は？  
・・・やはり、意見分かれる。
- ・ 図書館のツールの使い方を教えるまでにとどめ、書き方はほかの授業で
- ・ 書き方も含め、教えられるなら教えるべきでは

34

### 3-15. 学生・講師/職員結果の議論

#### その他

- 「図書館活用法」の基本的位置づけが共通認識されていない
- 実習法の改善
- 教授法の改善
- 課題の改善
- 講師間の連絡の改善

35

## 4. 今後の取組み



- ### 4-1. 今後の評価活動予定
- 現在～2008年度12月：調査終了  
和泉地区履修学生対象アンケート  
生田地区履修学生対象アンケート  
教員対象アンケート  
学内組織(学部長・学長など)インタビュー
  - 2009年1～3月：調査結果分析
  - 2009年4月～：学習達成目標策定  
...2010年度シラバスへの反映をめざす
- 38

- ### 4-2. 評価活動を通じて
- 現在までデータ収集の途中...今後も評価活動は継続
  - 評価活動は長期的、多年度にわたる
  - 単なる「教育効果」測定にとどまらない
  - 「評価活動」を通じてプログラムの意義や価値を再確認、講師間での共通理解の深化
  - 「評価活動」は図書館職員が自らの手でプログラム改善のため実施→教育に対する図書館側からの自発的・主体的な提言へ
- 39

## 指定管理者による千代田図書館 運営の評価と指標

千代田区立千代田図書館  
サービスプロデューサー  
梶川悦子

## 千代田図書館の歴史

明治20年	大日本教育会附属書籍館 神田区一ツ橋通町の旧体操伝習所寄宿舎内に設置
明治44年	東京市に委託され東京市立神田簡易図書館として開館 (大正2年に一橋図書館と改称)
大正12年	関東大震災により焼失 翌年ニコライ堂敷地にバラックで開館
昭和4年	一橋図書館から名称を駿河台図書館と改称 翌年(昭和5年)から一般公開開始
昭和9年	内田嘉吉文庫受託
昭和18年	市立駿河台図書館は都立となる(昭和25年から区立へ)
昭和26年	入館料無料となる(それまでは有料)
昭和30年	九段下に新館完成、千代田図書館として開館
平成19年	区役所移転に伴い、九段第3合同庁舎9・10階に移転 4月より指定管理者による運営開始(5/7開館)

CHIYODA PUBLIC LIBRARY

## 千代田図書館施設概要

蔵書数		約15万冊
	開架	約11万冊 (うち児童書約8千冊)
	閉架	約4万冊
座席数		約180席
	情報コンセント付の席 (キャレル席)	82席 16席
面積(共有部分含む)		約3,700㎡
来館者数	1日平均	約3,000名
	平日	約3,800名
	休日	約2,000名

CHIYODA PUBLIC LIBRARY

## ミッションステートメント

- ◆ 千代田区立図書館は、教育・文化・社会生活の発展に向けて、基本的人権としての知る自由を保障するため、千代田区民及び屋間区民への基本的な行政サービスとして、図書館サービスを提供することを任務とします。
- ◆ そのため、区内の大学、書店、古書店、文化施設等関連機関とも連携し、図書館サービスの充実 に 不断に努めます。
- ◆ その基盤となる理念として、「図書館の自由に関する宣言」(日本図書館協会1979年総会議決)に定める、資料の収集と提供の自由、個人情報の保護等を尊重し、実践します。

CHIYODA PUBLIC LIBRARY

## 千代田区の指定管理制度導入理由

専門的人材の確保 ・ サービス部門司書100%

民間事業者の  
ノウハウ導入 ・ 新しいサービスや業務展開

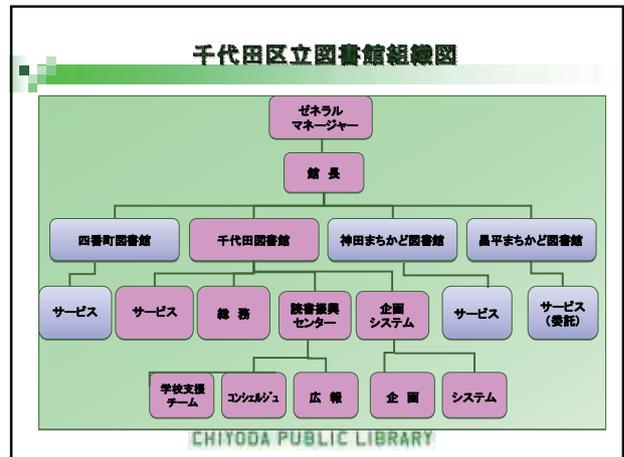
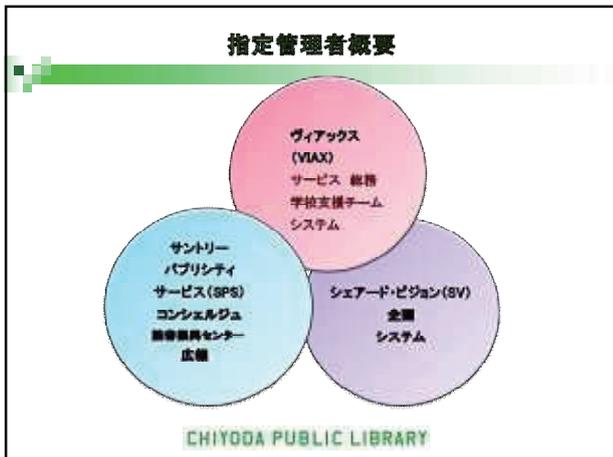
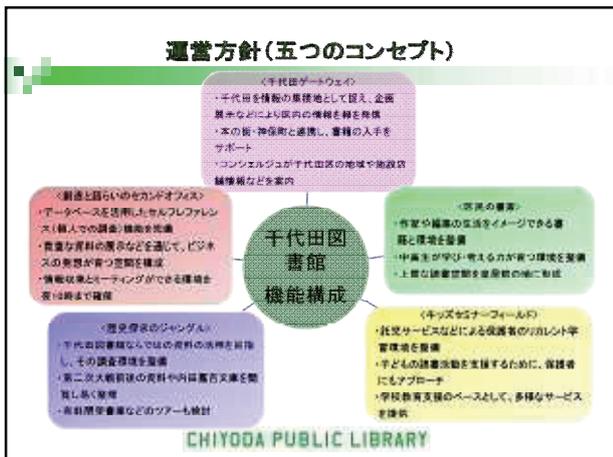
経費の合理化による  
コストダウン ・ 費用対効果

CHIYODA PUBLIC LIBRARY

## 千代田区が策定した基本構想

- 図書資料を使って社会に情報発信する図書館
- 公共図書館のあり方について、意識変革を行う図書館
- 図書資料の貸し借り偏重ではない図書館
- 都心に位置する、滞在型の図書館

CHIYODA PUBLIC LIBRARY



### 千代田図書館における公共図書館運営の根拠

- \* 地域社会における公共性の確立  
図書館内部環境完結型から外部環境適応型へ
- \* 千代田図書館運営のキーワード  
マーケティング  
(利用されるための仕組みづくり)  
イノベーション  
(改善によるバージョンアップ)  
ステークホルダー  
(利害関係者)

CHIYODA PUBLIC LIBRARY

### 千代田図書館指定管理者制度の特徴

- 創意工夫による新規サービスの展開を可能な限り認める
- 多様な付加価値を提供する有料サービスの導入
- 評価は短期だけではなく、中長期的視点も考慮する
- 中立的組織によるパフォーマンス評価を行う
- 成果を上げた場合は報償する制度の仕組みを作る

CHIYODA PUBLIC LIBRARY

## 千代田図書館の評価指標

### 1. 四つの観点からの図書館評価

指定管理者制度の導入にあたり、適切に運営が行われるためのチェック体制を構築するため、四つの観点による評価制度を導入

- ① 千代田区による定常点評価(千代田区)  
フロア・カウンターにおける接客態度の観察結果  
図書館評価のための職員インタビュー結果
- ② 指定管理者による自主的評価(指定管理者)  
千代田図書館来館者インタビュー報告書
- ③ 千代田区図書館評議会による評価(千代田区)  
千代田区図書館評議会による評価
- ④ パフォーマンス指標目標値の達成(千代田区・指定管理者)  
平成19年度 パフォーマンス指標の目標値達成結果

CHIYODA PUBLIC LIBRARY

## 千代田区立図書館運営の評価

### 2. 全体的評価(千代田区)

四つの観点からの評価に、総合的な観点を加えた最終評価

<http://www.city.chiyoda.tokyo.jp/service/00100/00010075.html>

### 3. 評価への対応策(指定管理者)

評価

詳しくは、下記サイトをご参照ください

・平成19年度千代田区立図書館運営の評価について

<http://www.city.chiyoda.tokyo.jp/service/00100/00010075.html>

・千代田区立図書館年報

[http://www.library.chiyoda.tokyo.jp/guidance/index.html#guidance\\_index16-1](http://www.library.chiyoda.tokyo.jp/guidance/index.html#guidance_index16-1)

CHIYODA PUBLIC LIBRARY

## 評価手法の問題点

現在の公共図書館のアウトカム指標(効果)は「利用実績」や利用者アンケートによる「満足度調査」という意識が根強い。

そのため、千代田図書館のように、パブリシティー効果による図書館戦略の方向性や、地場産業である、古書店および出版産業界との連携による新しいサービスの展開、地域社会におけるその効果については、評価できない状態になっている。新たな評価手法の提案が必要である。

CHIYODA PUBLIC LIBRARY

## 電子図書館評価を意識した システム設計

筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科  
筑波大学附属図書館 研究開発室  
宇陀則彦

## 図書館サービス評価

- 図書館サービスの判定: 品質と価値
  - バリューチェーン: 図書館は外部に存在する価値を取り込み、付加価値を与えて提供する。
- 顧客満足 = 知覚されたサービス / 期待されたサービス
- 希望サービス(最高)と限界サービス(最低)
- 電子図書館サービスについても同様
  - 利用者行動、リソース、システム、サポート(メンテ)

よい電子図書館を構築するためには  
これらの要因を総合的にマネジメントする必要がある。

## 電子図書館システムのリプレースを通じて

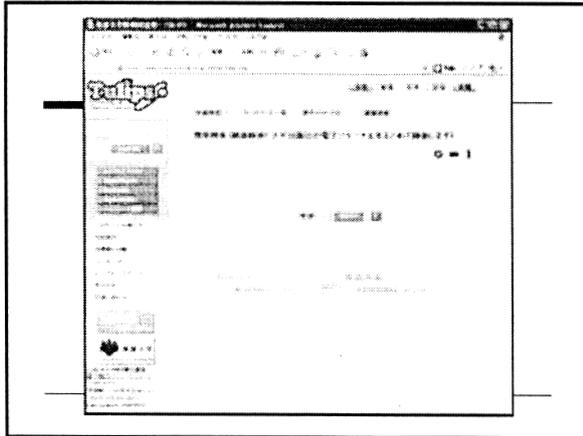


## 議論のはじまり

- 平成17年2月頃、仕様策定委員になった。
- 導入説明書を見て、危機感を覚えた。
- コンセプト作り
  - リソースオーガナイザという着想を得る。
- 仕様策定委員長に理解を求める。
- 委員会での議論
  - 無意識に現行システムをベースに考える。
  - 業務システムだという意識が強い。

## 議論の深まり

- ポータルを仕様書の第1章に、機関リポジトリを第2章にもってくる。業務系は後に置く。
- ベンダーを呼んで、コンセプトを伝える。
  - ソフトウェアの寄せ集めにはしたくない。
  - 業務から外部情報資源までポータルに連動
- ポータルデザインについて議論
  - 情報資源を前面に出す。
  - シンプルかリッチか。「簡単検索」と「データベース一覽」
  - 館の情報をどうするか。



## 新システム稼働開始

- 平成18年3月 新システム稼働開始
- クレームの嵐
  - 「簡単検索」のほずが...
  - OPACはどこだ？
- システムサービスに不慣れな図書館員
  - 問題なしに動くシステムはありえない。
  - 問題が起きていることを利用者に周知する必要あり
  - 設計はあくまで設計、稼働後の調整が勝負

## いくつかの知見(1)

- 利用者はシステムの利用イメージをもっている。
  - 実際のデザインと利用者のイメージが一致しない。
  - その結果、求める情報資源を見つけられない。
- 利用者は図書館がOPAC以上の機能を提供すると思っていない。
  - 高機能が目の前にあっても認識しない。
  - その結果、OPACしか使わない。
- 利用者は新しいインタフェースを覚えることを嫌う。
  - 新しい機能は往々にして複雑である。
  - その結果、高機能だとわかっていても使わない。

## いくつかの知見(2)

- 利用者は日ごろ使い慣れているページを出発点とする。
  - 多くの利用者が出発点として好むのはGoogle
  - その結果、図書館ポータルは出発点にならない。
- 情報資源へのアクセスパスは多様である。
  - ユーザパスとシステムパスが一致しない。
  - その結果、使いにくいシステムと感じる。

## いくつかの知見(3)

- 利用者は検索レスポンスに対して敏感であり、往々にして最優先事項となる。
  - 検索レスポンスは累積時間として認識され、ひどく遅く感じる。
  - その結果、遅いという理由だけで使わない。
- 利用者はただか10程度の検索結果中に求める情報があることを期待する。
  - 検索結果が多いと、絞り込むことがいやになる。
  - その結果、機能自体が劣っていると思いつむ。
- デザインを変更してクレームがおさまった。



### TULIPSリプレース後、1年経って思うこと

- ポータルはもう古い。(完全否定ではない)
  - 世間にはポータルだらけ。
  - 大事なのは「玄関」じゃなくて「リビング」
- 利用者のサービス認知は恐ろしく低い。
- システムデザインがそれに答えられていない。
- ソフトウェアの寄せ集めだから。
- システムの限界がサービスの限界

### 今後の電子図書館サービスのかたち

### ポータルデザインにおける必須事項

- 情報行動の出発点は図書館のウェブサイトではない。(しばらくはGoogleが出发点だろう)
- 中間ノード(仲介者)として設計
  - 電子図書館システムだけで囲い込まないこと。
  - 様々な入り口を用意する。
- 4次元ポータル
  - 様々なアクセスパスに対応できるようにする。
  - 通常の玄関から入ってくるとは限らない。

### 次期システムに向けて

- 電子図書館のサービス評価を考慮する。
  - 量的評価と質的評価
- 利用者のアクセスパスを重視すること
  - Appropriate path problem
- 電子図書館のアウトカム
  - インプット、アウトプットは既存の指標を用いる
    - COUNTERに準拠
  - “電子図書館の”ユーザビリティ評価
  - 電子図書館のアウトカム(成果)
    - 知的生産の向上度で測れないか。

### 電子図書館評価のジレンマ

- アウトカム(成果): 知的生産度の向上度
  - 電子図書館は知的生産に役に立っているのか?
  - その度合いは? 0%? 50%? 100%?
  - 逆に、知的生産に役立っている道具といえは?
    - ワープロ、表計算、統計処理、可視化ツール等
  - 知的生産の向上度は全てのツールから測るべき
- 電子図書館の成果は知的生産の向上度で測られるべきだが、電子図書館は知的生産の一部にしか関わっていない。**

### 電子図書館評価のジレンマ

- ジレンマを解決する二つの方向
  - 電子図書館は知的生産支援システムのごく一部にすぎないと割り切ること。(矮小化した見方)
  - 情報の入手(インプット)から知識の創造(アウトプット)まで、知的生産活動全てを覆うシステムを電子図書館と定義してしまうこと(極大化した見方)
- 固定的な図書館システムをやめ、必要なサービスモジュールをネットワークから取り出す。
- 知の伝達を図書館の集合体で司ること。

## 次期電子図書館システム(TULIPS-3)

### □ 知識創造型図書館

- 図書館システムを使って学習する(知的生産)
- バリューチェーン:外部に存在する価値を取り込む。
- シンプル&スピード
- インタフェース独立、機能モジュール

### □ 次期電子図書館システム企画書を参照

- ほぼ1年がかりで館内で議論
- 館内合意、ヒアリング対応、業者対応
- 電子図書館のミッションステートメント

## 次期電子図書館システム

### 現行システム

学術情報ポータル  
情報資源への案内  
EJ, DB単位で検索  
  
機関リポジトリ  
コンテンツの蓄積

### 1. 文献への距離が遠い

検索を何度も繰り返す必要がある  
到達までのクリック数が多い

### 2. 操作が複雑

インタフェースが悪い

### 3. 文献を入手して終わり

入手後のアフタケアが不十分

20

## 次期電子図書館システム

### 1. 文献へ最短距離で到達

### 2. 操作が簡単 シンプルなインタフェース

### 3. 文献をテーマごとに管理 コンテンツの関連付け

### 次期システム

個人環境  
研究テーマ・講義  
文献単位で管理  
  
機関リポジトリ  
コンテンツの活用

21

## 次期電子図書館システム

### 現行システム

学術情報ポータル  
情報資源への案内  
EJ, DB単位で検索  
  
機関リポジトリ  
コンテンツの蓄積

Rich but Complex

快適な

ポータル(玄関)からリビングへ

書庫から利用へ

コンテンツの関連付け

### 次期システム

個人環境  
研究テーマ・講義  
文献単位で管理  
  
機関リポジトリ  
コンテンツの活用

Simple and Quick

22

## 技術的担保

- 拡張と柔軟性をもったシステム
  - 基本的にはWeb Service技術を使う。
  - 機能をモジュール化
  - 柔軟に組み替えられる。
  - iGoogle, 奈良先端の例
  - 図書館システムベンダーもAPIを公開し、オープン化が進んでいる。
- 他のシステムとの連携
  - E-learning, OCV, 成績管理、業績管理システム

23

## 参考文献

- 文部科学省委託研究「今後の「大学像」の在り方に関する調査研究(図書館)報告書」
  - [http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/spons\\_report/future-library.pdf](http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/spons_report/future-library.pdf)
- 宇陀則彦. 電子図書館の質的評価. 情報の科学と技術. 2007, vol.57, no.8, p.390-395
- 宇陀則彦. 見晴らしの良い場所からあるべきシステムを考える. 情報管理, 2008, Vol.51, No.3, p.163-173

## 《2008年度研修会の総括と回顧》

研究部 研修委員長 今村 昭一

### 1. 2008年度研修会の開催について

今年度は1回開催とした。

「図書館評価 ―図書館サービスを自己満足で終わらせないために―」

10月23日（木）～10月24日（金） 於：明治大学

#### ○ 開催趣旨

大学の教育研究活動を支える学術情報基盤の要としての図書館がユーザーニーズに応じたサービスを提供するためには、大学図書館の諸活動を正當に評価する手法により得られた結果を反映することが不可欠であることから、「図書館評価」に関する正しい知識を備えることを目的に企画した。

#### ○ 参加者数

参加者は98校114名。募集定員の100名を超過したが、会場収容人数満席にて対応可能であったことから、研修委員会の総意により全員参加を認めることとした。

#### ○ プログラム

基調講演「図書館評価のツボと落とし穴」（慶應義塾大学 糸賀雅児教授）ほか、講演3、事例報告3。

利用者の視点、図書館リテラシー教育、指定管理者制度、電子図書館システムなど「図書館評価」に関わる様々な要素を分かりやすくお話しいただくとともに、大学図書館が今後どのような方向に進むべきかについて問題提起もなされていたように思う。

受講者アンケートの結果、この「図書館評価」というテーマが時節に合った企画として好評であったことから、今後も継続的に取り上げてよいのではないと思われる。

プログラムの構成・時間配分について、複数の意見をいただいたので、次回研修会に活かしたい。

なお、会場については概ね好評であり、会場誘導もスムーズに行われた。

#### ○ 今年度特徴的な事項

##### ・グループ報告での講師謝礼金額について

「講師謝礼に関する基準（申し合わせ）」には明記がないため、委員会で検討の結果、1コマとして扱い、報告者数によらず1名分を支出する運用として、役員会に報告した。

##### ・会員以外の参加資格について

会員以外の企業からの参加申込について、今回は定員を超える申込があったこと、また、当研修会は会員館の館員向けであることから、参加をお断りすることとした。今後の取り扱いについては、会場収容人数、受講料等について検討の必要はあるが、次期委員会に引き継ぐこととした。

##### ・参考文献の事前通知について

事前に各講師へ照会・確認し、参加者への予習資料として参加可否通知時に連絡することとし、講演者への質問があれば事前にメールにて受け付ける旨あわせて通知した。結果として、事前質問はなかったが、次回研修会においても同様に行いたい。

## 2. 2009年度研修会に向けて

### ○ 研修会開催回数

研修会の内容・質を向上させるために開催回数を年度に関わらず年1回とすることを運営委員会（第4回）で承認いただいた。

なお、開催時期としては毎年10月の下旬を予定しており、また、会員からの要望があれば開催回数を増やすことも考慮することとした。

### ○ 日程

2009年10月22日（木）～23日（金） 於：東京農業大学

### ○ プログラム

第7回研修委員会（2008年12月11日）で検討の結果、加盟館内でこれまでのスタイルが認知されていること、及び受講者アンケートからも現在の体系が一定の評価を得ていることから、2009年度については大幅な変更は行わず、会場の都合、予算、サポート人員体制を勘案したうえで、可能な限りの改善を行うにとどめることとする。次回以降の委員会にて、プログラムの具体化に向け、引き続き検討を行う。

### ○ 2009年度研修委員会

研修会開催（年1回）のため、年8回程度開催の予定。

以上

2008年度私立大学図書館協会東地区部会研究部

決算報告書

(2008年4月1日～2009年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	予算額(A)	決算額 (B)	差異 (A-B)	摘 要
部会交付金	2,293,200	2,320,500	△ 27,300	@13,000円 × 0.7 × 252 校 加盟館追加3校分 (27,300円)
研修会参加費収入	270,000	324,000	△ 54,000	参加費：@3,000円×108名
研究会参加費	150,000	69,000	81,000	意見交換会参加費：@3,000円×23名
雑 収 入	1,000	4,329	△ 3,329	預金利息
小 計	2,714,200	2,717,829	△ 3,629	
前年度繰越金	3,003,113	3,003,113	0	
合 計	5,717,313	5,720,942	△ 3,629	

支出の部

科 目	予算額(A)	決算額 (B)	差異 (A-B)	摘 要
研究会開催費	600,000	292,298	307,702	研究会(交流会)11月14日開催 (於 東京経済大学)
研修会開催費	800,000	625,341	174,659	研修会 10月23・24日(於 明治大学)
運営委員会費	120,000	120,000	0	
運営委員・分科会 代表者合同会議費	200,000	85,682	114,318	年2回開催(第1回5月22日於駒澤大学・ 第2回11月14日於東京経済大学)
分科会助成金	890,000	635,000	255,000	基本助成： 330,000 円 ( 30,000 × 11 分科会) 割増助成： 305,000 円 (@5,000×正会員61名 [上限13万円/分科会])
特別助成金	500,000	64,360	435,640	L-ラーニング学習支援システム研究分科会1件
研修委員会費	120,000	120,000	0	
研究部活動費	100,000	4,900	95,100	新設研修分科会打合せ会議・会合費
印 刷 費	600,000	336,840	263,160	研究部報告書：500部
通 信 費	220,000	84,977	135,023	研修会案内通知、交流会案内通知、 研修分科会募集要項、会員決定通知発送
運 営 事 務 費	50,000	10,182	39,818	
予 備 費	1,517,313	1,024,193	493,120	廃会分科会経費 部会長校へ返還2件(資料組織 <799,593円>・メタデータ<224,600円>)
小 計	5,717,313	3,403,773	2,313,540	
次年度繰越金	0	2,317,169	△ 2,317,169	
合 計	5,717,313	5,720,942	△ 3,629	

2008年度私立大学図書館協会東地区部会研究部決算報告は、以上の通りです。

東地区部会研究部担当理事校

2009年3月31日

東京経済大学図書館



監査報告書

2008年度に係る決算報告書及び附属書類について、その証憑書類及び帳簿を監査いたしました結果、当該決算報告書は適正に表示されていると認めます。

東地区部会監事校

2009年4月3日

駒澤大学図書館



活 動 計 画 (案)

(2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

1. 研究部活動方針

- 1) 研究活動
- 2) 研修活動
- 3) 研究部ホームページの安定的運用

2. 活動計画

1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議。  
年 8 回程度開催。

2) 運営委員・研究分科会代表者合同会議

研究分科会活動計画・運営その他について協議。  
2009 年 5 月、11 月の年 2 回開催。

3) 研究会

「研究分科会報告大会」(研究分科会活動成果発表)の開催。  
2009 年 12 月開催予定。会場未定。

4) 研修委員会

研修会開催(年 1 回)のため、年 8 回位開催予定。

5) 研修会

2009 年 10 月 22～23 日 於：東京農業大学

6) 研究分科会

11 研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施する。

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| (1) 分類研究分科会         | (7) 西洋古版本研究分科会        |
| (2) 逐次刊行物研究分科会      | (8) 和漢古典籍研究分科会        |
| (3) パブリック・サービス研究分科会 | (9) 情報リテラシー教育研究分科会    |
| (4) 図書館運営戦略研究分科会    | (10) Lーラーニング学習支援研究分科会 |
| (5) レファレンス研究分科会     | (11) 研修分科会(2009 年度新設) |
| (6) 理工学研究分科会        |                       |

休会：相互協力研究分科会、北海道地区研究分科会、企画広報研究分科会

以 上

2009年度私立大学図書館協会東地区部会研究部  
**予 算 (案)**  
 2009年4月1日～2010年3月31日

収入の部

単位：円

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	摘 要
部会交付金	2,890,500	2,293,200	597,300	2,320,500円 @13,000円 × 0.7 × 255校
研修会参加費収入	270,000	270,000	0	570,000円 部会長校より新設・研修分科会支援金 参加費：@3,000円 3,000 × 90 名 × 1 回
研究会参加費	0	150,000	△ 150,000	2009年度は研究分科会報告大会のため未計上
雑 収 入	1,000	1,000	0	預金利息
小 計	3,161,500	2,714,200	447,300	
前年度繰越金	2,317,169	3,003,113	△ 685,944	
合 計	5,478,669	5,717,313	△ 238,644	

支出の部

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	摘 要
研究会開催費	500,000	600,000	△ 100,000	研究分科会報告大会開催
研修会開催費	700,000	800,000	△ 100,000	2009年度は1回開催
運営委員会費	100,000	120,000	△ 20,000	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	200,000	△ 40,000	年2回開催 (5・11月)
分科会助成金	830,000	890,000	△ 60,000	基本助成： 330,000 円 ( 30,000 × 11 分科会) 割増助成正会員 500,000 円 ( 5,000 × 100 名)
特別助成金	1,070,000	500,000	570,000	研修分科会支援金 (57万円)
研修委員会費	100,000	120,000	△ 20,000	
研究部活動費	50,000	100,000	△ 50,000	研究部活動 (運営委員会・研修委員会含む)
印 刷 費	600,000	600,000	0	研究部封筒：3000枚 研究部報告書：500部
通 信 費	200,000	220,000	△ 20,000	
運営事務費	100,000	50,000	50,000	研究部担当理事校交代初年度のため増額。
予 備 費	1,068,669	1,517,313	△ 448,644	
合 計	5,478,669	5,717,313	△ 238,644	

## 《関係規程》

### 私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)  
(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)  
(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)  
(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)  
(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)  
(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)  
(2000 年 6 月 9 日 改訂)  
(2004 年 6 月 18 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下会則という）第 33 条第 1 項第 3 号、第 39 条及び第 40 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下東地区部会という）に研究部（以下研究部という）を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下研究部担当理事校という）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 39 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は各研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は本研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は本研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 本研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名
- ② 運営委員 8 名  
(東地区部会役員校 3 名 東地区加盟校 5 名)

第 7 条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、本研究部を代表し、かつこれを統轄する。

第 8 条 運営委員は、隔年 4 月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて本研究部の運営に当たる。

第9条 研究部には、本研究部の運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第10条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他本研究部の運営に関する事項

第11条 本研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第12条 研究部の運営について必要な事項は別に定めることができる。

第13条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

## 附 則

- 1 本細則は昭和29年4月1日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和34年5月8日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和35年10月14日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和44年2月18日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和63年6月28日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は2001年4月1日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は2004年6月18日よりこれを実施する。

# 私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する者若干名をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を発足するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更新年度の前年 12 月までに示さなければならない。

第 7 条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第 3 条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。

第 8 条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。

- 2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえ、各研究分科会の会員として登録する。

第 9 条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があった場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。

- 第10条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。
- 第11条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月末までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。
- 第12条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。
- 第13条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。
- 第14条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。
- 第15条 研究分科会代表者は、毎年2回（5月・11月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。
- 第16条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

#### 付 則

- 1 本申し合わせは、2004年4月1日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005年4月1日から施行する。

# 私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和56年4月 1日 制定)

(平成 2年4月 1日 改正)

(平成 8年3月28日 改正)

第1条 この規則は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下研究部という）に、研修委員会（以下委員会という）を設置することを定める。

第2条 前条の目的達成のため委員会は、次の活動を行う。

- (1) 研修会等に関する情報の収集、提供
- (2) 研修会等の企画、実施
- (3) 関連する機関、団体との連絡・協力
- (4) その他目的達成のために必要な活動

第3条 委員会は6名の委員をもって構成し、うち1名は研究部担当理事校（以下担当理事校という）から選出する。

第4条 委員の任期は2年とし、再任はさまたげない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は担当理事校の担当期間とする。

第5条 委員に欠員が生じた場合はすみやかに補充するものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

第6条 委員会は研修会等を企画・実施する際、その必要に応じて、実行委員若干名を置くことができる。

第7条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は委員会を招集し、議事を進行する。

第8条 委員長及び委員は東地区加盟館から研究部担当理事（以下担当理事という）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

第9条 委員長は委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年2回以上報告しなければならない。

第10条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第11条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、原則として受益者負担とする。

第11条 委員会の運営に関する事項は委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第12条 この規則の改廃については研究部運営委員会の承認を必要とする。

## 附 則

この規則は平成8年4月1日より施行する。